てんとう虫コミックス
スペシャル
ポケットモンスター
SPECIAL
21
まんが 山本サトシ
シナリオ 日下秀憲
©2005 Pokémon
©1995-2005 Nintendo／Creatures Inc.／GAME FREAK Inc.
てんとう虫コミックススペシャル
ポケットモンスター
SPECIAL
21
日下秀憲
山本サトシ
小学館
TCS-0096

■作者のことば

山本サトシ YAMAMOTO Satoshi
●やまもと さとし

お待たせしました!! 21巻をおとどけします!! 四天王・伝説のポケモンなど大物キャラの登場、ルビーとサファイアの過去のいきさつなど、クライマックスに向けて、今巻はいつも以上においしい見せ場てんこ盛りです!! とにかく、読者のみんなが「引く」くらい、「過剰なことをしてやろう!」のパワーで描いた白熱の場面の数々、画面酔いにご注意を(笑)。

日下秀憲 KUSAKA Hidenori
●くさか ひでのり

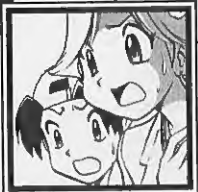
ニンテンドーDS版新タイトル『ダイヤモンド&パール』の発売が2006年と発表があり、ポケモンファンの気持ちはすでにお祭ムードと思います! また、その前夜祭ともいうべき『ポケモンレンジャー』の発売決定など、関連の話題も各方面で盛り上がり中! 完全新作のリリースは3～4年に一度のこと、この僕もまるでサッカーファンがワールドカップを待ちわびる気持ちで、心底わくわくしている毎日です…!!

>>> Cover Illustrated by YAMAMOTO Satoshi
>>> Cover Designed by MARUYAMA Tomomi (CUZCO MUCHO)

てんとう虫コミックス
スペシャル
ポケットモンスター
SPECIAL
21
まんが
山本サトシ
シナリオ
日下秀憲
©2005 Pokémon
©1995-2005 Nintendo／Creatures Inc.／GAME FREAK Inc.

ポケットモンスター SPECIAL 21

シナリオ 日下秀憲

ルビー
サファイア
ミクリ
ルビーの師匠。グラードン阻止に向かう。
今までのお話
グラードンとカイオーガの被害が拡大するホウエン地方。巨悪の根元を絶つべく海底洞窟に向かったルビーとサファイアは、そこで「紅色の宝珠」「藍色の宝珠」によって、伝説の2匹に精神を乗っ取られ
マツブサ
マグマ団頭領。グラードンに支配される。
マリ＆ダイ
ジャーナリストとして真実を追及する。
ポケモン協会理事
ホウエン災害対策本部の最高統轄責任者。
テッセン
アクア団シズクに敗れ、海中へ…！

Story of The Fourth

アスナ

カイオーガを巡りアクア団イズミに苦戦。

ナギ

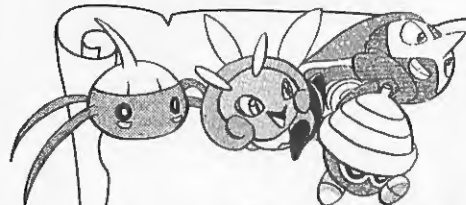
サファイアの先生。アスナたちの援護へ。

トウキ

ミクリ、ツツジとともに三頭火と交戦中。

ツツジ

グラードン侵攻を企てるマグマ団と対戦。

たマツブサとアオギリに遭遇、激しい戦いを繰りひろげる。が、決着のつかないまま、4人は宝珠の発するエネルギー体に包まれ、グラードンとカイオーガのもとへと引き寄せられていき…!!

一方、ジムリーダーたちは伝説の2匹の侵攻を阻止すべく力を合わせるも、アクア団・マグマ団の妨害もあって状況は悪化の一途。そしてついに2匹が目指す最終目的地が判明した。そこは、かつて太古の時代に2匹が激突したと伝えられる、歴史と神秘の町・ルネ!! 悠久の時を経て再び対決が始まる! それぞれの想いを胸に、全ての運命が今…集結!!

ダイゴ

最強のポケモンリーグ・チャンピオン。

ミツル

ルビーの親友。センリと空の柱で修行中。

センリ

ルビーのお父さん。ミツルと空の柱へ。

アオギリ

カイオーガに心を奪われたアクア団総帥。

MONSTERS

サファイア●10歳

全ジム制覇を目指す、超野性派トレーナー。持ち前の大自然パワーでホウエン地方を駆けめぐる。

ルビー●11歳

コンテスト全制覇をめざす、美しさが信条のトレーナー。バトルには全く興味なしだったけれど…!?

<ちゃも> バシャーモ♀

炎や格闘の技で戦うポケモン。れいせいな性格。

<ZUZU> ラグラージ♂

オダマキ博士からもらったポケモン。のんきな性格。

<どらら> コドラ♂

固い体が自慢で、"とっしん"が得意。やんちゃな性格。

<NANA> グラエナ♀

かっこよさ部門を担当。いじっぱりな性格。

<えるる> ホエルオー♂

巨大な体で海での移動を助けてくれる。ずぶとい性格。

<COCO> エネコロロ♀

かわいさ部門を担当するポケモン。むじゃきな性格。

<ふぁどど> トンファン♂

キンセツシティで仲間になった。せっかちな性格。

<POPO> ポワルン♀

天気の変化を感じとって姿を変える。しんちょうな性格。

<とろろ> トロピウス♂

空を飛ぶときに使う。ふだんは放し飼い。おだやかな性格。

NO DATA

<じらら> ジーランス♂

人を連れて最深海に潜る能力を持つ。がんばりやな性格。

NO DATA

POCKET MONSTERS SPECIAL 21

もくじ

●第250話●
VS カイオーガ&グラードンXII

Pocket Monsters SPECIAL
The Fourth Chapter

火山の火口にある…、

歴史が眠る神秘の町、

ルネシティです!!

ギュオオオ

ルネシティは今「炎熱」と「豪雨」ふたつの境界線上に位置している唯一の町です!!

じゃあやっぱり!! 超古代の2匹が激突する場所に間違いないのね!?

おおお、恐れていたことがついに現実になってしまった!
眠りについた超古代ポケモンの「目覚め」じゃ!!

しかしご老人方、カイオーガとグラードンはすでに目覚めて活動しておりますぞ。
それは第1段階。これから起こらんとしているのは第2の「目覚め」じゃ!!

第2の…「目覚め」!?

海底洞窟での「目覚め」を『肉体の目覚め』とするならば
第2の「目覚め」は『精神の目覚め』!
2匹がルネへ向かうのは目覚めのほこらで『精神の目覚め』を行うためじゃ!!

送り火山と目覚めのほこらには深い関係がある!
おそらく送り火山で守っておったふたつの宝珠も2匹に引き寄せられているはず!
そして…、

ゴ
ゴ
肉体・精神ともに完全に目覚めた２匹が行うことはただひとつ!!
ゴ
ゴ
ゴ
ゴ

たがいのすべてをぶつけ合う超決戦じゃ!!
ついに出会ってしまった!!
太古の戦いに!!
決着をつけるべく!!

ミナモシティ
ズズ
〝はたきおとす〟!!
!?
これは…!!
フウとランが
髪にさしていた…、
かんざしだ…!!

おまえだったんだな、
フウとランを
やったのは！

だがいい。
オレたちの目的はグラードンの進撃、それだけは果たせた。

すでにヤツは「精神の目覚め」の地、ルネまで到達していることだろう、フフフ。

正直恐れ入ったぜ、おまえの剛の奥義。

オレの幻影攻撃を力ずくで破ったのは、…おまえがはじめてだ。

じゃあね。

ポッ
うっ…う…
許してしまった…。
グラードンの
進撃を…!!

〝しぜんのちから〟!!
カイオーガを無事
進撃させるにいたった
今となっては、
あなたとの小競り合いに
意味はないのですが…、
ロコーン!!!
ついに
ひん死状態。
勝負ありましたね。
明確な力の差というものを
示すために、最後の一撃を
浴びせるというのも…
悪くないですね。

アスナ…!!

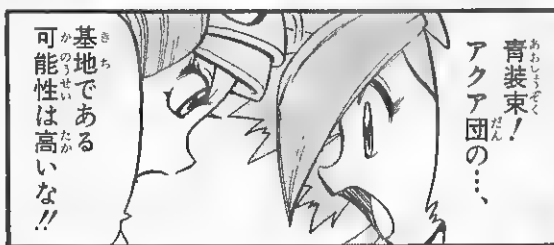
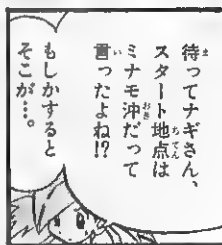
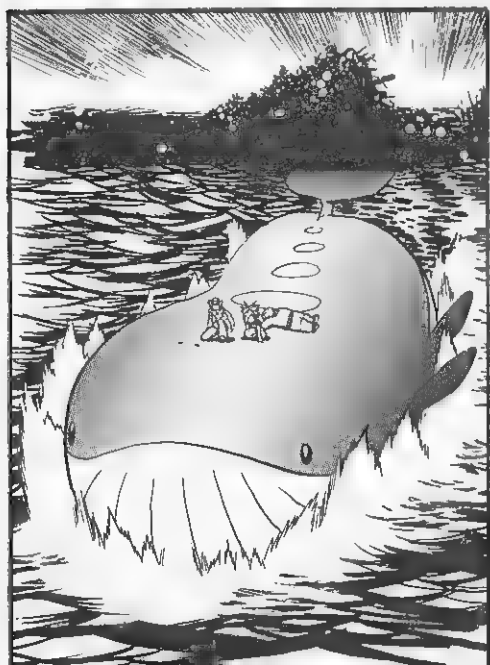
どけ!!

なぜ技が出ないのです!?
ルンパッパ!!
気づかなかった?ロコンが最初にあげた雄叫び…、
あれが"おんねん"だってことに…。
お、"おんねん"…!
「自分をひん死にした技を封じる技」か!!
そうだ!!だからおまえのルンパッパはもう"しぜんのちから"は使えない!!
あたしのロコンが身を賭して封じ込めたんだ!!
だからどうした!!我々の勝利はすでにゆるぎないものとなっている!!
もうこの場に用はない!!
がはっ!イ、イズミさん私も連れて…。
ウシオさん、自分のことは自分でなんとかしてください!!

逃げるな!!
ひきょう者!!
アスナ
待て!!
我々はカイオーガの
進撃を
許してしまった上、
テッセンさんも
失ってしまった
んだぞ!!
私はこれ以上
犠牲を増やし
たくない!!
そう…、
でしたね…。
!!
ドドドドドッ
ゴォォォォ
テッセンさん
ゴボゴボ

テッセンさん!!

ライボルト!!

なんだ？どこから飛んできた？
なんなの？ナギさん。
壊れてはいるが…、航行を記録する計機だ。
データは生きているようだな、「…ミナモ沖を出発…、
カキカキ
海底洞窟へ潜りその後134番水道に浮上」!?
これはかいえん1号の航行記録だ!!
ええ!?
待ってナギさん、スタート地点はミナモ沖だって言ったよね!?
もしかするとそこが…。
青装束！アクア団の…、
基地である可能性は高いな!!
行ってみよう、ナギさん!!ソライシ教授もそこに捕えられているかもしれない!!

コチョ コチョ コチョ コチョ コチョ
ヒー
ヒー
ヒー
ミナモデパート

ヒー
ヒー

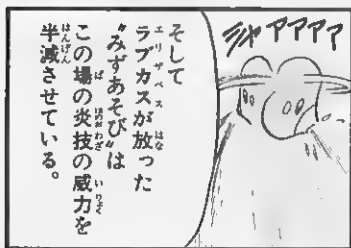
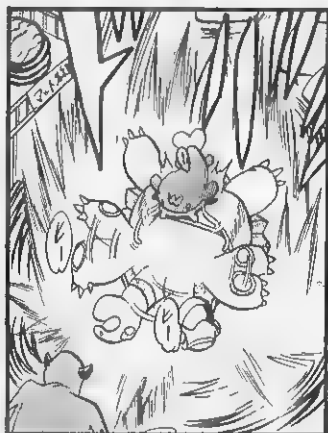
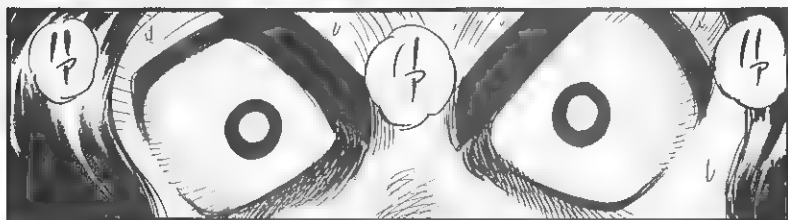
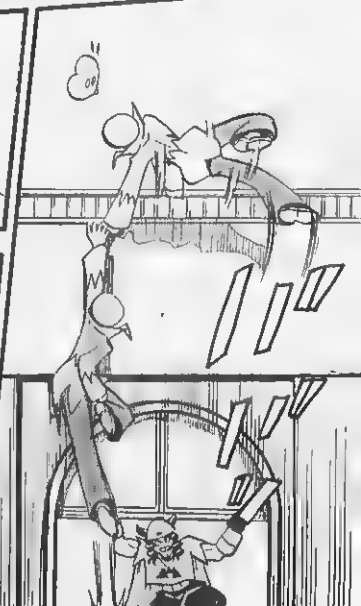
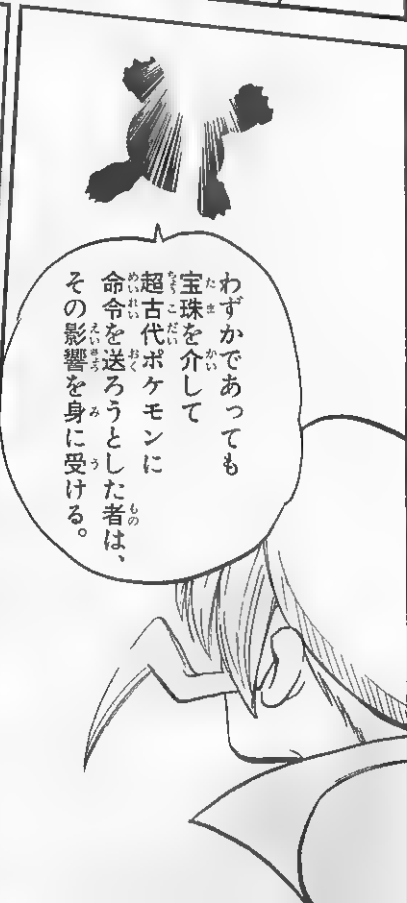
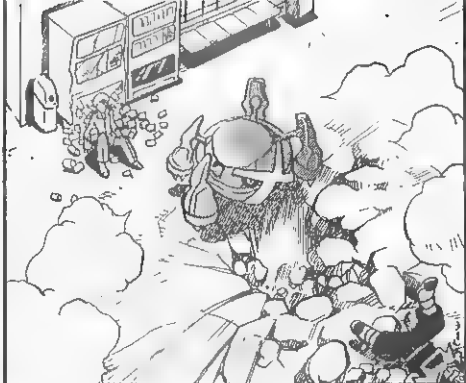
もう
あきらめたら
どうですか？
ハァ
ハァ

私のナマズンの
"くすぐる"によって
あなたのコータスは、
ほとんど能力を
発揮できない状態だ！
ヒィー
ヒィー

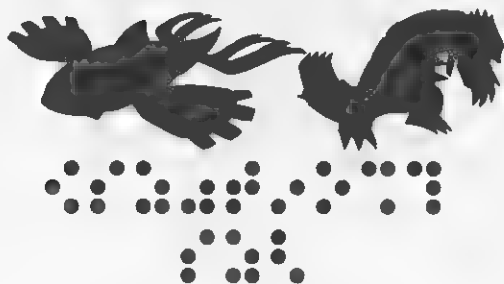
ミャアアアア
そして
ラブカスが放った
"みずあそび"は
この場の炎技の威力を
半減させている。

あなたに勝ち目はない！
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
!?

むうっ!!
ぐがかか。
何かがおかしい!!
があぁ!!

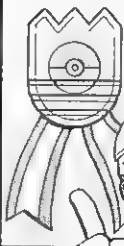
…う…。
どうなってるんだ？この男は。
おそらく海底洞窟で宝珠に触れたのだろう。
わずかであっても宝珠を介して超古代ポケモンに命令を送ろうとした者は、その影響を身に受ける。
うううう。
おまえは…!!
おおおお!!

メタグロス!!
"コメットパンチ"!!

待ち
かねたぞ…、
ダイゴ。
すまな
かった…。
さっそくだが
ミクリ、
おまえに
頼みがある。

●第251話●

VS カイオーガ&グラードンXIII

Pocket
Monsters
SPECIAL
The Fourth Chapter

カイナシティ
サイユウシティって知ってますか?
ああ。ホウエンの果て、ポケモンリーグが開催されるトレーナーの聖地だろ?
ええ。リーグ発足時は参加者全員でトーナメントをして優勝を決めたそうなんです。

でも、ある大会から過酷なルールが敷かれるようになって…それが、
「チャンピオン」と「四天王」への挑戦なんですって。

過去の大会の上位入賞者から選ばれた「四天王」は最後の番人としてトーナメントを制した者の先に待ちかまえる。
いわゆる「殿堂入り」ってヤツか!!
現チャンピオンも含めた彼ら5人全員に勝って、はじめて「頂点」を名乗れる。
そしてその話をしてくれたのが、
ハイ!

この「石板のデコボコ文字」の読み方をボクに教えてくれたポケモンリーグの現チャンピオンなんです。
しかし、ここへ来て雨足は激しくなるしポケモン協会の飛行船もオレたちに気づかずに行っちまったし。
おまえを見つけ出したのはいいが身動きとれなくなったぜ。
チャンピオンツワブキダイゴさんとの…約束なんです。

いいんです。…ボク、ここから離れるわけにはいかないから。
え!?
「この石板はとても大事なものだ。いずれ取りに来るまであずかってくれ」って言われてるんです。
チャンピオンから。

フヨウ。

カゲツ。

プリム。

ゲンジ。

フフ…5人おそろいとは…。
ずいぶん久しぶりにこの光景を見た。

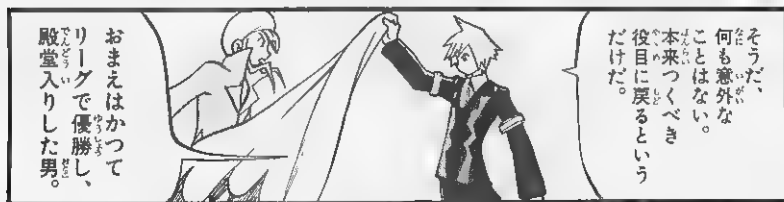
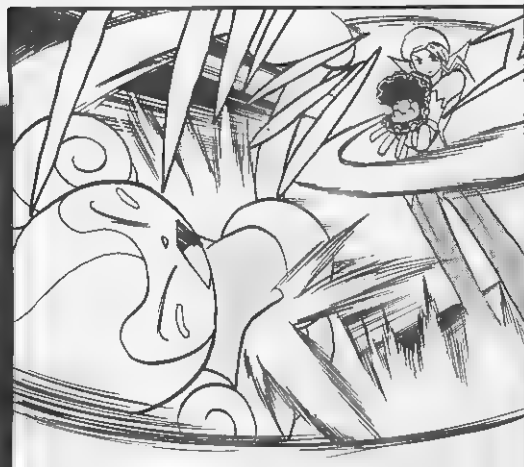
あちしたちリーグ開催時以外はみんなちりぢり、どこにいようと自由だかんねー。
へへ、だからオレも呼び出されたときは何事かと思ったぜ、ダイゴくん。
探し出すのにほかの地方まで足を運び、苦労したぞ、4人とも…。

しかし…、「ともに戦う仲間を」となったとき、
やはりこのメンバー以外考えられなかった。

これだけの有事、しかもダイゴくんの呼びかけとなったらかけつけないわけにいきません。
うむ、そうとも。

それはおぬしも同じであろう。ミクリ殿?
さあ、4人とも。
手はずは説明したとおりだ、ここから先はそれぞれの持ち場に…。…頼む!
持ち場?何をしようとしているんだ!?
これが答えだ。
パチン

おまえとともに戦うにあたり、
……これを託したい。おまえならわかるだろう、この意味が。

…チャンピオンマント……。

そうだ、何も意外なことはない。本来つくべき役目に戻るというだけだ。
おまえはかつてリーグで優勝し、殿堂入りした男。

本来だったら、今、このマントを着ているべき人間なのだから…。

殿堂入りおめでとう。
理事室
ここに新たなチャンピオンが誕生した。
ミクリくん。
これからはチャンピオンとしてその責務にあたってくれ。
あ〜、また今回の新チャンピオン誕生によりランキングも変化したはずだな。
となると…、上位入賞者のランクでトップのダイゴくん以下上から4名がミクリくんにつぐ四天王ということに…。
ちょっと待ってください理事。
?
実は…、辞退したいと考えています。
な、なんだって!?どうしてだ!?
私の師であるジムリーダーアダン。
私は彼のあとをついでルネのジムを守っていきたい、以前からそう考えていたのです。

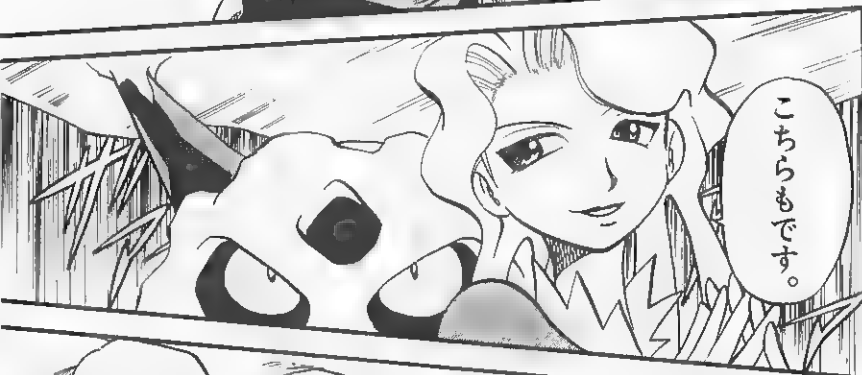
ジムリーダーとチャンピオンは兼任できない。
バサ
バサ
そう言っておまえはチャンピオンの立場につくことを辞退し、ランキングで次の位置だった僕がこのマントを着ることになった。
ほとんど実力差はなかった。
おまえらしいコメントだな、でも僕は知っている。
辞退のもう一つの理由…。
もちろんアダン師匠のあとを継ぎたいというのもウソではなかったろう。
…でも本当は…。
あのころ、ヒワマキジムにナギが就任したからだ。
同じジムリーダーの職に就いて彼女のそばにいたかった…。
そうだろ?
……。
バレていたのか。

どちらにせよ、ダイゴ。おまえのほうが適任だったことは間違いない。頂点に立つなら人間的に整っていることが重要だからな。
事実おまえは立派にその責任を果たしていった。リーグの頂点に立ちその実力で大会ごとに挑戦者を退けてきた。
だからなおのこと聞きたい…。
なぜ今さらこのマントを渡そうとするのか。
それは…。
うがあああ!!
メタグロス!!

今なお、宝珠の
影響化にあるのか!!
わずかに触れただけで
あろう、この男ですら
これほどならば、
実際に海底洞窟で
念じていた連中は
どうなってしまった
のか…!!
それを確かめるには
グラードンを追うしかない!!
いない!?
な、なぜだ!!
ツツジが
〝とおせんぼう〟
で足止めして
いたはずが…!!

すなわちそれは"とおせんぼう"をかけていたトレーナーが敗れた…ということ!!
グラードンはルネに到達し、心までもが完全に、覚醒してしまった…!!
その証拠に!時間を確認してみろ!!
時間!?
ああ!!
戦っていて気づかなかったんだろうが…、今は真夜中!!本物の太陽はとっくに沈んでる!!
バカな!!
じゃあ、この昼間のように照りつける光は!?
グラードンが心の覚醒をしたためみずから発し始めた、光と熱のエネルギーだ!!
父の指示の実行を急がねば!!

相手は伝説の超古代ポケモン2匹、食い止めるべきはその激突だからな。
それなりの戦力をこちらも得るために…。

着いたぜ！ダイゴくん！
こちらもです。
こっちもだ。ダイゴくん!!
了解！
ミクリ…、
おまえにチャンピオンマントを託したのは…、

この一連の戦いによって、
僕が、命を落とすかもしれないからだ…。

SAPPHIRE
●サファイア

ちゃも
バシャーモ♀
Lv54

どらら
コドラ♂
Lv41

じらら
ジーランス♂
Lv55

ふぁどど
ドンファン♂
Lv56

とろろ
トロピウス♂
Lv53

えるる
ホエルオー♂
Lv53

126番水道

海底洞窟

ルネシティ

RUBY
●ルビー

ZUZU
ヌマクロー♂

NANA
グラエナ♀

COCO
エネコロロ♀

POPO
ポワルン♀

カナズミ	ムロ	キンセツ	フエン
トウカ	ヒワマキ	トクサネ	ルネ

	かっこよさ	うつくしさ	かわいさ	かしこさ	たくましさ
ノーマル					
スーパー					
ハイパー					
マスター					

●第252話●
VS カイオーガ&グラードンXIV

Pocket
Monsters
SPECIAL
The Fourth Chapter

ったく…、しょうがねえ。

ズズズズ

それにしても…、

ゴゴゴゴ

たまった雨水や浸水で建物がつぶれはじめたぞ!

もうカイナにいつづけるのはヤベえ!

でも約束が……!!

バカ! 死んじまったら約束もくそも……ん!?

メキメキ
うおお!! こっちもか!!
〃シャドーパンチ〃!!
ゴ!!!
あんたでしょー!? ダイゴくんから石板をあずかってる子って――っ!?
あちしが助けに来たからねー!
!
大丈夫ー!?

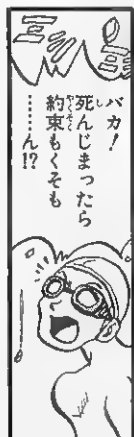
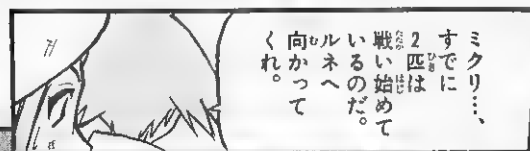
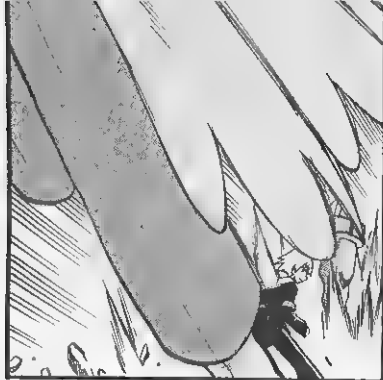
フヨウ、「彼」に石板の文字を、読み上げるよう伝えてくれ。

ダイゴ！一体何をしようとしている!!

ミクリ…、すでに2匹は戦い始めているのだ。ルネへ向かってくれ。

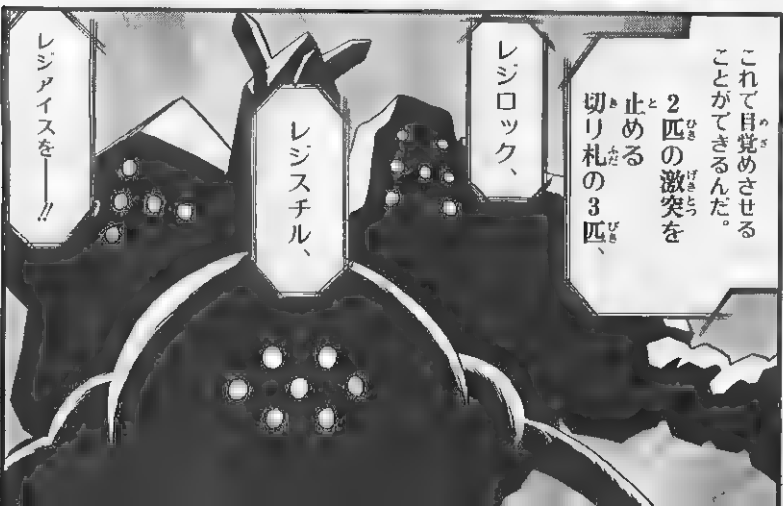
すぐに行く。僕を信じてくれ。

…頼む。

……。

わかった…。

久しぶりだね。石板は手元にあるかい?
ハイ!!

そうか。これまであずかってくれてありがとう。解読は進んだかい?
ハイ!!

自信を持ってくれていい。キミは視力を失っているが、その指先の感覚の鋭さは僕をしのいでいる。
僕が教えた法則どおり読んでくれれば、きっと石板の内容をつかめると思っていたよ。

これで目覚めさせることができるんだ。2匹の激突を止める切り札の3匹、
レジロック、
レジスチル、
レジアイスを――!!

さあ、読んでみてくれ。
ハイ。
わたしたちわ、
このあなでくらしせいかつし、
そしていきてきた。
すべてわぼけもんのおかげだ。
だがわたしたちわあのぼけもんをとじこめた。
こわかったのだ。
ゆーきあるものよきぼーにみちたものよ。
とびらをあけよそこにえいえんのぼけもんがいる。
さ……。
……。
どうした?
ダメです。
「さいしょにほ」……、「さいごにじ」……。
ごめんなさい!! この石板が欠けていてここまでしか、読めないんです!!

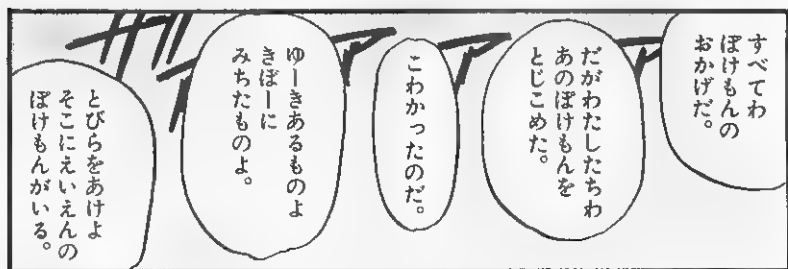
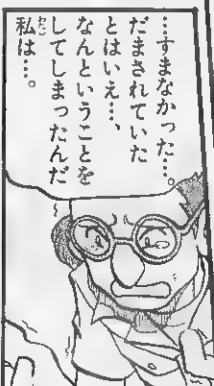
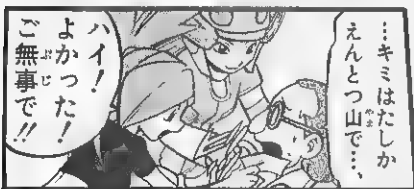
!!

ソライシ教授!!

…キミはたしかえんとつ山で…、

ハイ!よかった!ご無事で!!

…すまなかった…。だまされていたとはいえ…、なんということをしてしまったんだ私は…。

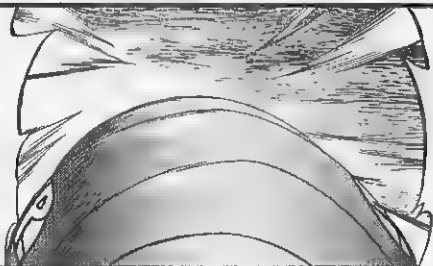
教授、ここを脱出しましょう。移動ポケモン協会本部までお送りします。

教授〜〜〜〜!!
よくぞご無事で〜。
さあ、アスナもテッセンさんといっしょにバ・グーンで手当てを受けるんだ。
え?ナギさんは?
私は…、
カイオーガ・グラードン対決の地、ルネへ向かう。
ジムリーダーを束ねる者としての…命令だ…。
だったらあたしも…、
ダメだ!!
傷つき疲れきった体を休めることも戦いの上では重要なことだ。

理事、こちらナギです！

通達に従い、ルネに向かいます。ただしアスナ、テッセンさんは満身創痍、私の判断で戦いより退くよう命じました。

なんと！

ミクリからもツツジ、トウキ両名が力尽きたとの報告が入っている！

戦力となりえるのはナギ、ミクリの2名のみか！

しかし、事態は緊急レベルMAX!!誰でもいい、総力を結集するのだ!!

くり返す!!ただちに…、…総力を結集し……。

総力か…、

かけつけられる者が…何名…いるだろう……。

…だが…、

たとえただ1人であろうと…向かうのみ……！

最終決戦の地へ!!

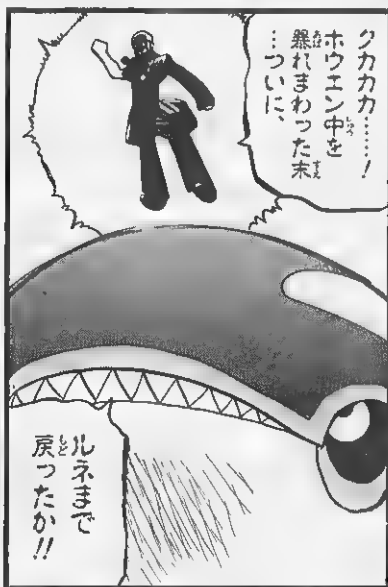
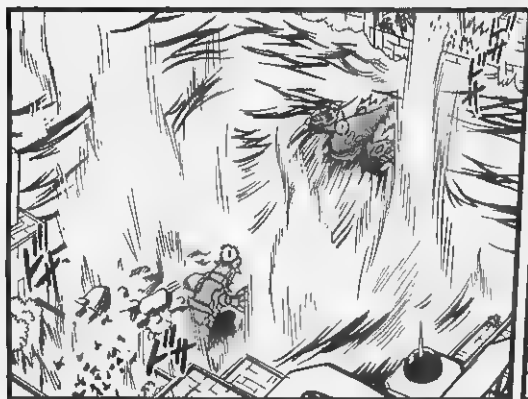
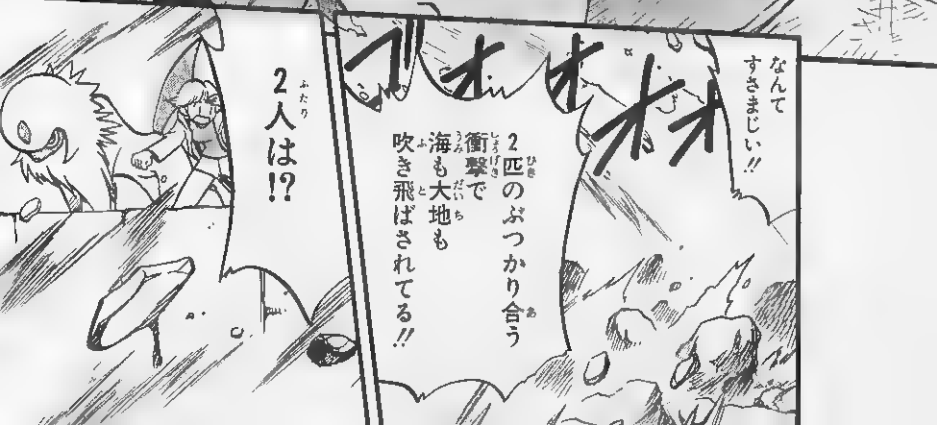
うあ!!
くう!!

クカカカ……!
ホウエン中を
暴れまわった末
…ついに、
ルネまで
戻ったか!!

あとは
久遠の仇敵を
…倒すのみ!!!

ハア…ハア…。
カイオーガと
グラードンの
激突…、

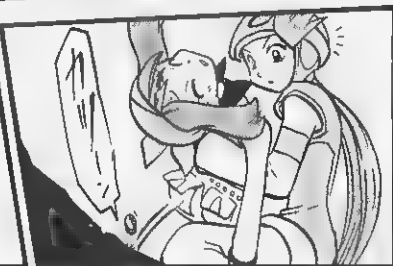
必ず…、
食い止める!!!

ちゃも!!
ZUZU!!
邪魔を、
するな!!
おまえたちは傍観者として見ていろ!!
そして幸運に思うがいい。
歴史に刻まれるこの瞬間に立ち会えることを!!

ああ!!
タッ
これが、超古代にも行われたという伝説の戦い!!
ゴオオオオ
なんてすさまじい!!
2匹のぶつかり合う衝撃で海も大地も吹き飛ばされてる!!
2人は!?

いた!!ルビーくん!!
サファイアちゃんは…!!
対決の場所をはさんで2人が対岸に!!
ねぇ、ダイ!なんとかならないの!?
アブソル、お願い!!なんとかしてぇ!!

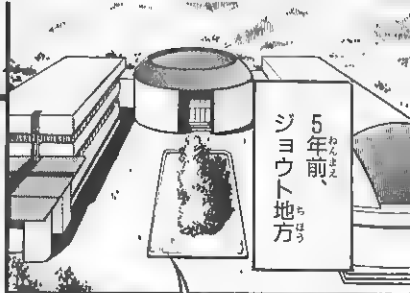
〝マジックコート〟!!
ありがとう、アブソル！やっぱりあなた味方なのね!?
だったらどんどんやっちゃって!! すごい技を出してこの戦いを止めて!!
アブソル!?

ちがうよ、マリさん……。助けてはくれたけど…、こいつは誰の味方でもない。
もし、さっきマリさんが言った考えが正しいとしたら…、
きっとこいつは災いが起こることを知らせるだけの存在。
「自然」の代表として、この戦いの行く末を見守る審判者……。
私も…、そう思う……。
フォオオオオオ
ミクリさん!!
この災いを起こしたのは「人間」だ。
解決を「自然」にゆだねるわけにはいかない。
ルビーとともにこの激突を止めてみせる!!
そうとも!
!

ジムリーダーとして…解決はこの手で!!
ナギさん!!!
サファイア!!
…う…師匠……。
来てくれたんですね?
…せ、先生。

すみません…、宝珠、奪還できませんでした…。
使い手と超古代ポケモンが宝珠を通じて同調してしまった……。
もうあいつらのパワーには…勝てません!!!
あきらめるな!!きっと方法はある!!
…すまんち…、あたしらでは力が足りんやったと。
…あのすさまじい力、とても破れんたい。
先生、先に逃げて!!
あきらめるな!こんなところで散ってどうする!?
キミは未来ある子どもだ!!ポケモンと過ごす時代を、世界をこのまま奪われていいのか!?

大切な人を失ってもいいのか!?
……………。
師匠…、
ただ1人…どうしても会っておきたい…人がいます。
…いや…、
…どうしてももう一度会わんといけん…、…あの人に……。

会って…、伝えておきたいことが…ある!!
もうずいぶん昔…ずっと小さいころの思い出の中の人です……。
名前も顔も覚えていない……。
その人は父の親友の娘で、
ジムリーダー試験を受ける父の応援のために来ていた…。
一緒に遊んだのはほんの数日間でした。でも、そのとき以上に楽しかったことはなかった。
会って…、伝えておきたいことが…あると!!
と、言うてもちっちゃかったころの思い出の中の人たい。
名前も顔も覚えてなかとよ……。
そん人は父ちゃんの親友の子どもで、父ちゃんと一緒にそん人のところへ行ったったい……。
たった何日間かしか一緒に過ごさんかったけど、そのとき以上に楽しかった時間はなかったとよ……。

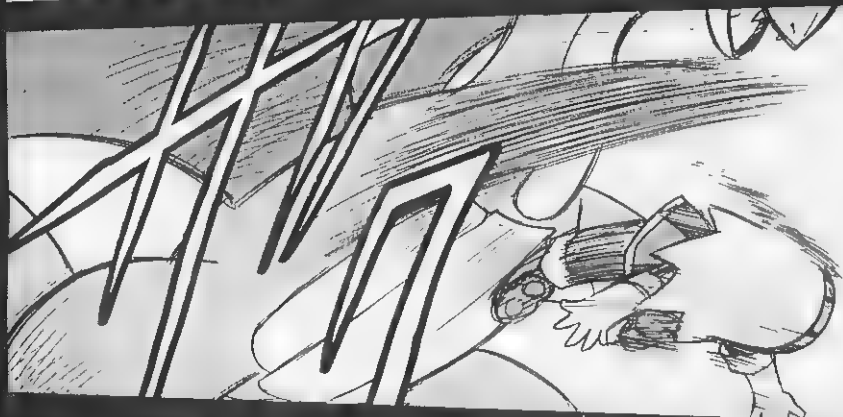
信じらんないでしょうけど…師匠。
そのころのボクは…、
ウソやと思うやろうけど…先生。
そんころのあたしは…、
やんちゃでバトルが大好きな子どもだったんです。
おとなしくて木登りもバトルもようせん子どもやったと。

5年前、ジョウト地方
いよいよ今日ね、あなたがジムリーダーになる日！
ずっと目指していた夢がかなうんだわ!!
ま〜だわかりませんぞォ。
試験は今からなんですからな。
な〜んて失礼！
センリに限って不合格なんてまず考えられないですな。
気が早いが合格後の就任ジムがどこになるのかの方が気になるでしょう？
いいえ〜。この人と一緒ならどこへでも！
お〜〜この幸せ者め!!センリよ、ぜ〜ひ、わがホウエンに来い！
フッ

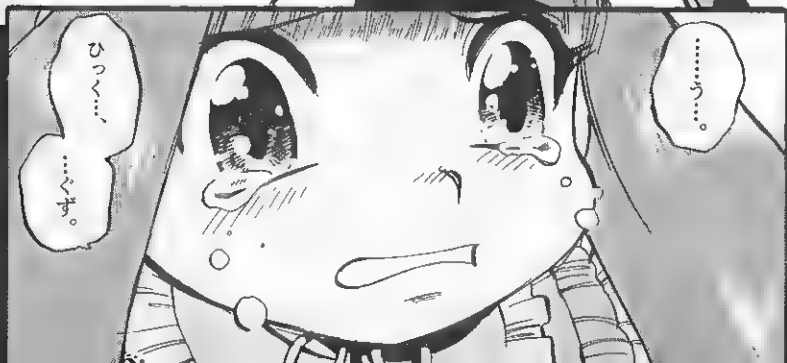
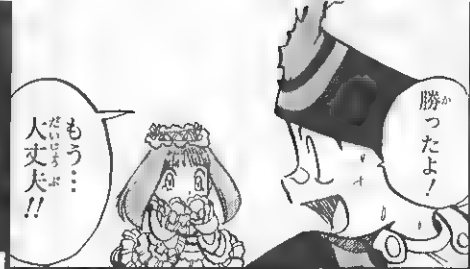
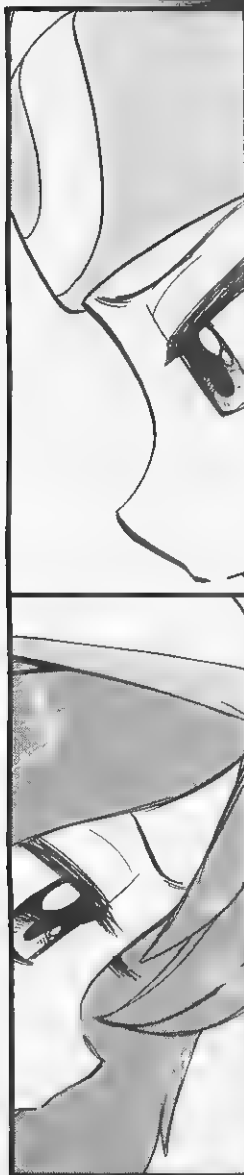
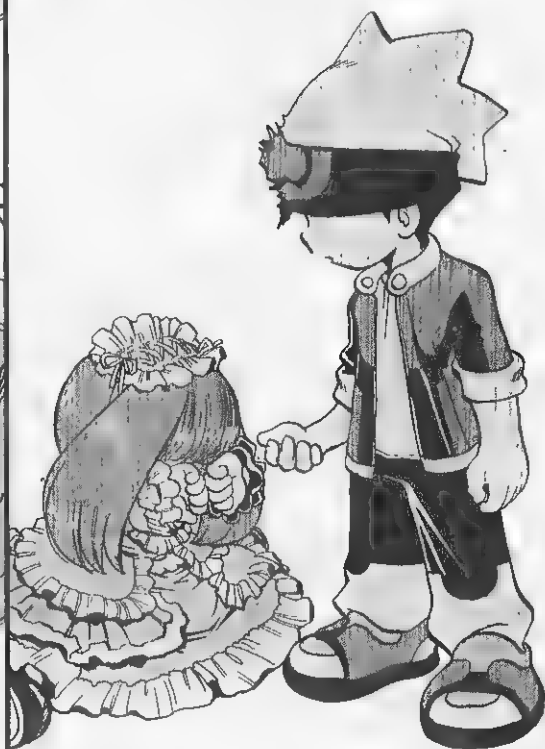
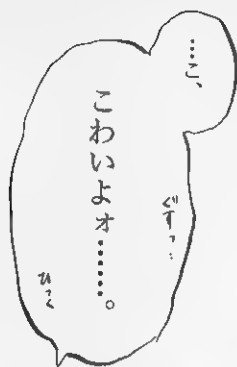
ルビーは
どうした？
向こうで
遊んでたわ。
フフ、
見るもの全部
珍しいみたい。

夢中で
過ごした
夢の
ような
時間…、

でも…
そこで
あの事件
が……。

野生のボーマンダ!!
キャアア!!
危ない!!
ここにいて!!
NANA!!
COCO!!
RURU!!

この子を守らなきゃ!!
ボーマンダめ絶対倒してやる!!
〝ドラゴンクロー〟か!!
なんの! 父さんから教わったバトルの腕前を見ろォォォォ!!!

ドス
ドス
ハッ
ハッ
勝ったよ！
もう…大丈夫!!
ボーマンダは追っ払ったから！
……う…。
ひっく…、
…ぐず。

…こ、
こわいよオ……。
ぐすっ
ひっく

こわい……。
彼女はボーマンダよりも、ボクの戦う姿に恐怖してたんです。
助けてくれた彼にそげんひどか言葉言うてしもたと…。
そしてその日以来父が家をあけることが多くなりました…、
試験に落ちたと言っていたのでバトル修業に明け暮れていたんでしょう。
そしてその日以来父ちゃんの研究も忙しくなって、
あたしも父ちゃんの手伝いでいろんなポケモンに触れるうちにわかってきたと。
「ポケモンバトルのせいで…、
急に1人ぼっちになってしまった……」
「あたしが自分で戦えない弱か存在やから…、
彼ば傷つけた……」

だから
……その時
……決めた。

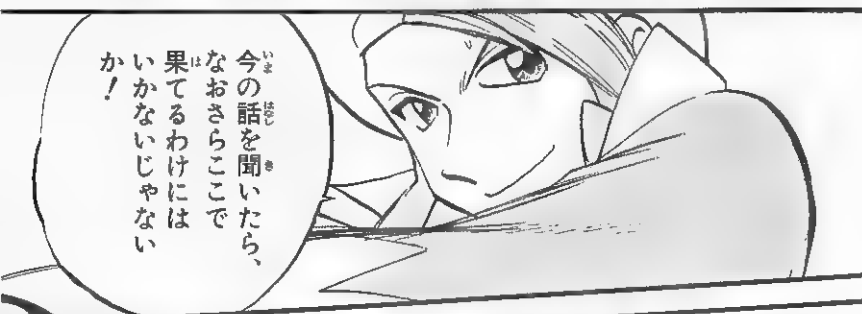
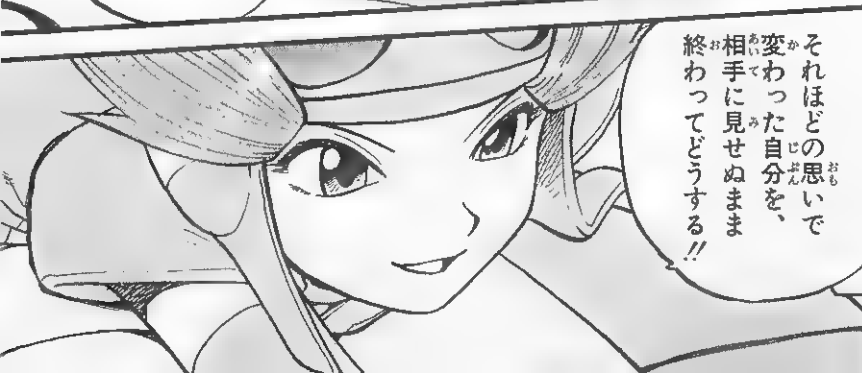
これからは
強さよりも
美しさを
追い求めよう、

自分の戦う姿は
もう二度と人前に
さらすまい!!

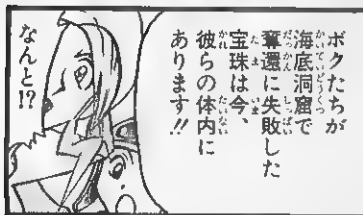
これからは
強さを
身につけよう、

自身を守り
誰かも助ける
強い力を!!

今度
会うときには、
こんなに
変わった
自分を
見てもらえる
ように……。

ゴゴゴ
サファイア、来るんだ!!
ゴゴゴ
むっ、
足場が崩れてきたな!!
すいません、師匠。もう最後だと思ったら、つい話しすぎてしまって…。
最後?バカなことを言うな!!
ごめん…先生…あたし。
しっかりしろ!対岸のミクリと合流するぞ!!
今の話を聞いたら、なおさらここで果てるわけにはいかないじゃないか!
それほどの思いで変わった自分を、相手に見せぬまま終わってどうする!!

そう…ですね、師匠！

そうったいね、先生!!

さあ！気持ちが定まったところで…どうするか!?

師匠!! 2匹の戦いの本能を止める方法はただひとつ!!

宝珠の力を消し去ることだと思うんです。

ボクたちが海底洞窟で奪還に失敗した宝珠は今、彼らの体内にあります!!

なんと!?

どうしたナギ？

い、いや。さっきサファイアのポーチから落ちたこの石…、熱を発してる…！

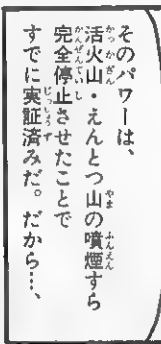
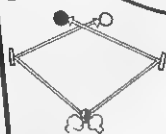
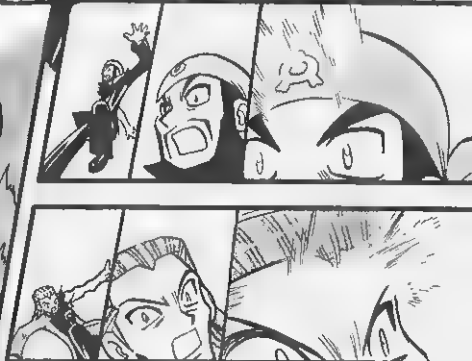
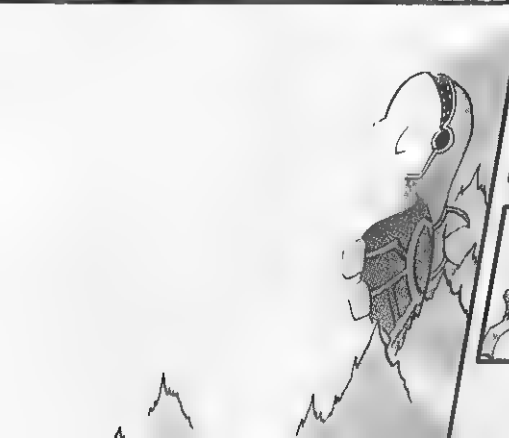
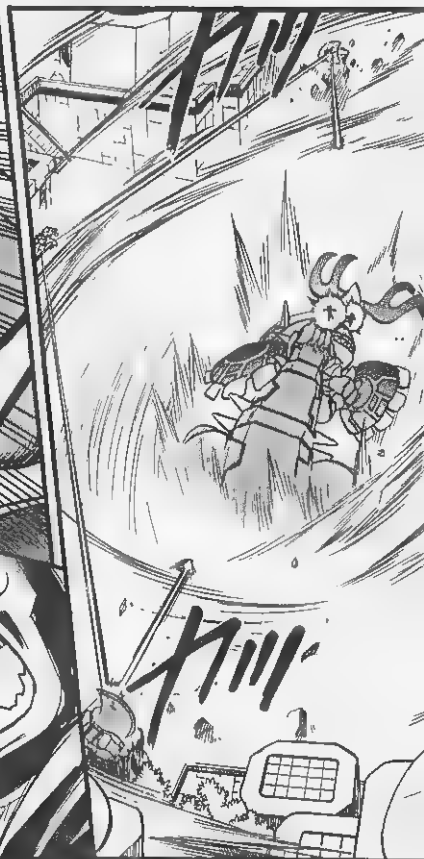
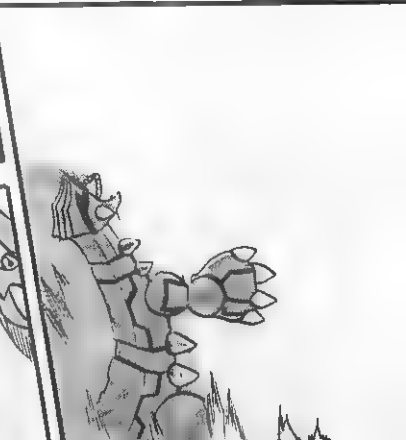
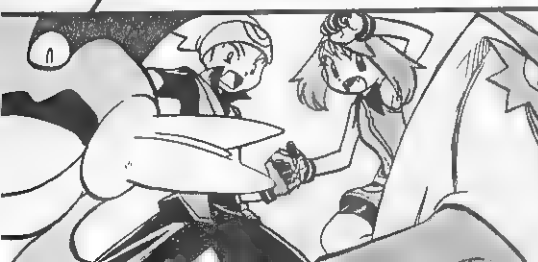
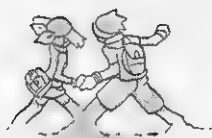
!!

それは…、隕石グラン・メテオのかけらじゃないか!!

サファイア!! キミはどこでこれを!?

え、えんとつ山ったい。多分、アクア団が落としていったと。

むう！これさえあればヤツらを封じることができるかもしれない!!

どういうことですか？師匠！

…最初に宝珠が手のひらに吸いこまれたとき…、手の甲に紋が現れました。
そして紋は腕から肩、肩から額へ移動し、2匹と2人の同調が進んだように見えました。
宝珠の力がもれ出るようにあの紋が浮かび出たのだとすると。
今、宝珠は……。
額にある!!!
ここからだと宝珠までかなりの距離、グラン・メテオの力を両岸にある"マジックコート"めがけて同時に射ち出し、反射角を調節して
狙い打ちます!!
あの足場でそれをなすには私のエア・カーと、
私のチルタリスが必要だな。
グラン・メテオのかけらはこれだけ、チャンスは一度しかない、…頼んだぞ!

行くよ!!今度こそボクたちの手で……。
うん!あの2匹ば止めるったい!!
1、
2、
3、
GO!!

●第253話●
VS レジロック・レジアイス・レジスチルⅠ

Pocket Monsters SPECIAL

The Fourth Chapter

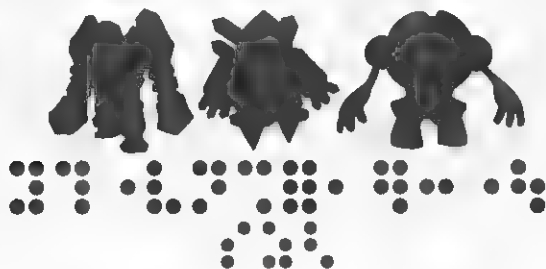
ズゴゴゴ

む!?

ルネの方角から
巨大な衝撃が…。
大きな力がぶつかり、
…はじけた!
ミクリたちが
2匹を止めたのか!?

……。

…いや、
ちがう!
衝撃は…、
周囲へ拡散
して…!!

ニューキンセツ
カナズミ病院から運ばれてきた、患者さんですね!!
コラッ、しぃーっ!!
この人は50日以上、意識が戻っていない、安静が必要な患者さんなんだ。
いけね。
し〜
カナシダトンネルがなかったら、こうはいかなかったわね。
ああ、開通が間に合ってよかった。
そーっとねそーっ…と。
ダ…、
ダイゴ……。
…う。

ミナモシティ
解析を急がねば!!「さいしょにじ…」「さいごにほ」
そこまでは読み取れたんだね?
ハイ!
ただし一番肝心な部分だけが欠けていて、解読できていない、
早いとこ教えてくれよ!!

「ほ…」「じ…」、いったい何を表しているんだろう…。
科学解析を進めてくれていた父からも連絡がない。ついに…間に合わなかったか。
どうだ!? タイゴくん!
こっちは腕をふるう気満まんで準備ってるぜ!!
レジロック レジスチル レジアイスを、
引っぱり出す方法をよォ!!

おおおおお
〝ブレイククロー〟オオオ!!!
ガガガガ
ひゅう!
固えなあーっ!!
ギャン!
やっぱ、ただ
攻撃するだけじゃ
ムリだな。
フョウは
何してる?
ダイゴくんから
借りた、この
特製スコープで
何か手がかりが
ないか探って
みるからね。
まずは赤外線…。
「さいしょに」
「さいごに」
っていうからには、
2つ以上の何かの
順番とか並び方を
表していると
思うのよね。

イヤ、もう限界だ。みんな、
…作戦を一部変更する!!

レジロック レジスチル レジアイスをともない全員で決戦の地へ!!
という、当初の計画を遂行するには時間がない!!

ルネから周囲に拡散するエネルギーを放っておいたら、ホウエン全体がその力に飲みこまれてしまう!!

身一つの突入となるが…、このダイゴ、一足先に向かおう。

ゲンジ、プリム、カゲツは…、
それぞれのアタックをつづけてくれ!

大丈夫！
あと少しなんだ。
あんたがここまで
読み解いてくれた
がんばり…、
絶対、ムダに
しないかんね!!

むう!!

なんとすさまじいエネルギー!!

ルネシティまでまだ、これだけの距離があるというのに……!!

どんどん広がっていく!!

2匹がぶつかり合った衝撃と熱が、周囲の海や大地をも吹き飛ばしているんだ!!

こらえて近づけ!!

〝リフレクター〟!!

むおお!!
!?
いかん!! この衝撃に巻きこまれている人が…!
メタグロス助けるぞ!!
しっかりしろ…!! このダイゴが来たからにはただの1人も犠牲者は出さん!!
え?

…今、なんて言いよったと？
…「このダイゴが来たからには」…って、言いよったね？
あ、ああ。
な、なんてことったい…。ホウエン中めぐって海底洞窟まで行って…、
最後の最後でようやっと……。
あんたがダイゴさんやね！デボンの社長さんからあんたあてに預かった手紙ったい!!
…!!!
父からの手紙だって!?

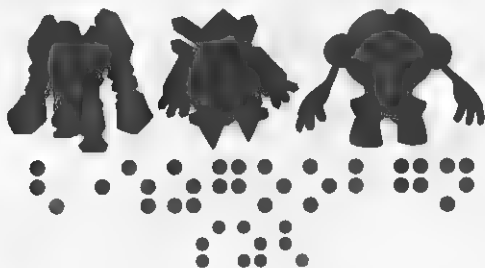
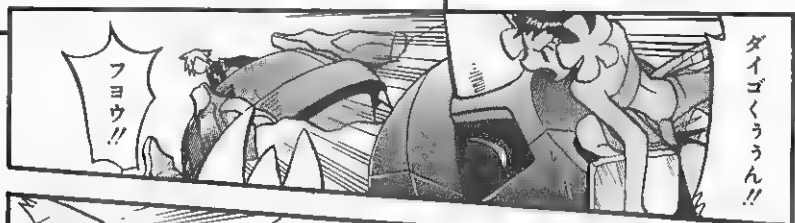
デボン・コーポレーション
む…。
石板と同じく、指先で読む文字！しかも敵には解読できない古代の文字!!
「さいしょにほえるおー」、
「さいごにじーらんす」……。
石板の欠けていた部分と結びつくメッセージ!!
父は解析に成功していたんだ！
そうか、これはレジロック、レジスチル、レジアイスを呼び出すときに必要な…隊列だ!!

●第254話●

VS レジロック・レジアイス・レジスチルⅡ

Pocket Monsters SPECIAL

The Fourth Chapter

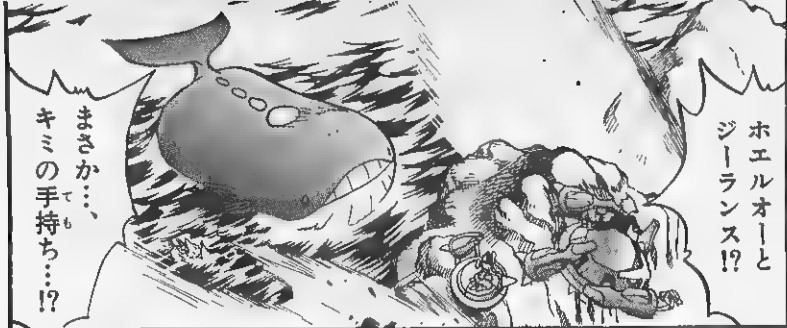
「ほえるおー」に…「じーらんす」…。
ダイゴくうん!!
フヨウ!!
これ!!
…間違いない!!

欠けていた部分にこの手紙を合わせれば、書き表されていたのは隊列…、
レジロックレジスチルレジアイスを呼び出すために必要なポケモンの隊列だ!!

やっぱり!じゃあホエルオーとジーランスさえいれば、2匹の激突を抑えられるんだね!
うむ!

な…なんてことったい…。

ダイゴさん…、
あたし、今ほど運命ば感じたことはなか…。

えるるうっ!!!

じららあっ!!!

手紙を届けてくれたキミ自身が、必要な2匹を持っていた…。確かに…、なんという運命!

よし!さっそく僕の手持ちを加えて隊列を作ろう!!

ダイゴくん!石板が…!!

…ゆーき
あるものよ
きぼーに
みちたものよ。

とびらをあけよ、
そこにえいえんの
ぽけもんがいる。

さいしょに
ほえるおー、

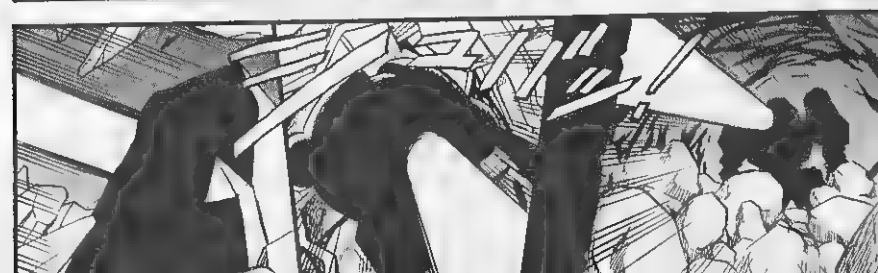
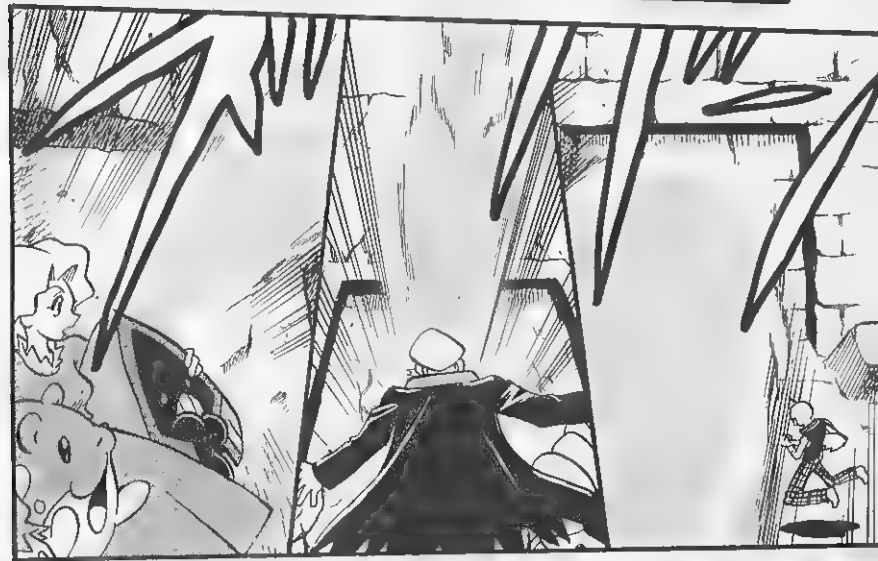
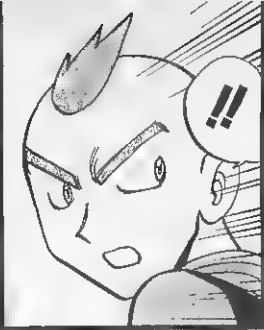
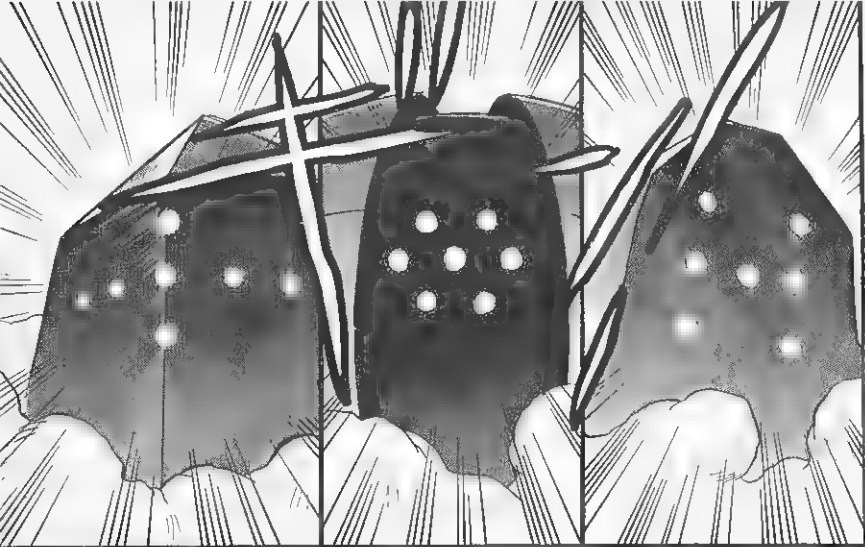
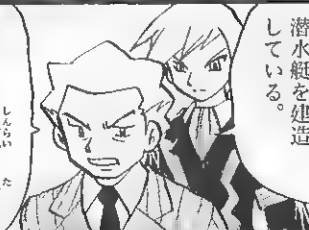
クオォォォォ

さいごに
じーらんす。

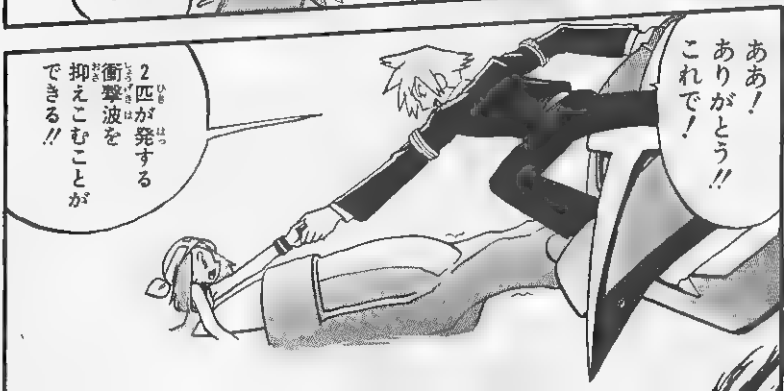
そしてすべてが、

ひらかれる!!!

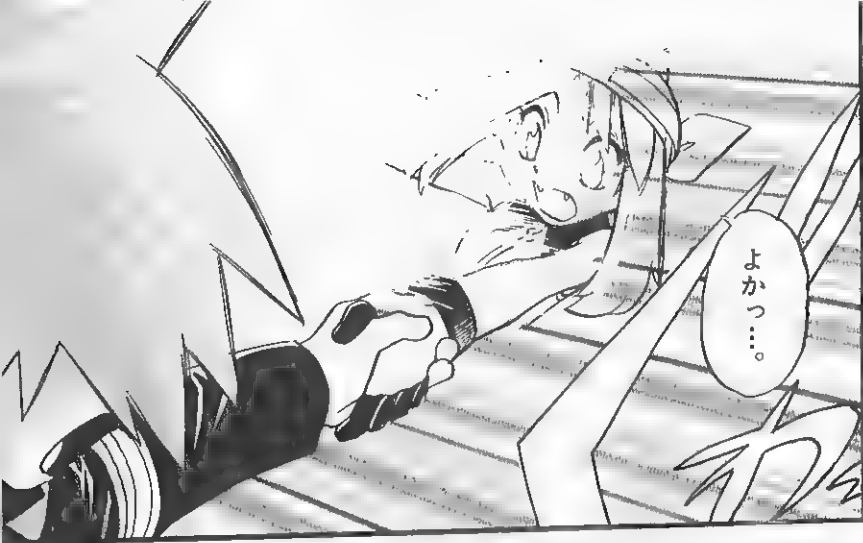
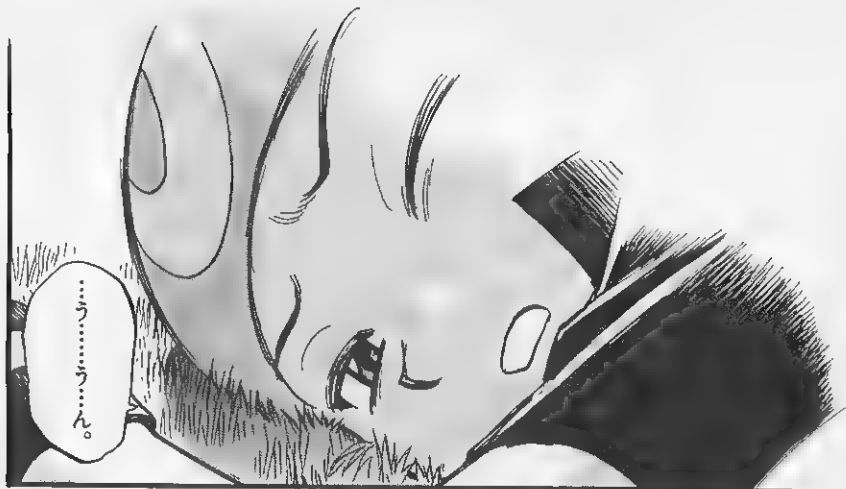
!!
!!
!!

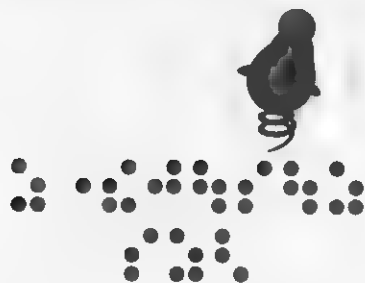
来た!!

お…父さん…。
ダイゴ、…よく聞きなさい。
赤装束と青装束、2つの巨悪の計画を止めるためには、カイオーガとグラードンの復活を不能にするしかない。
今、カイナのクスノキくんが潜水艇を建造している。
おまえは信頼に足る仲間を集め、それに乗り組むチームを結成しなさい。
はい。
2つの組織より先に深海に向かい、海底洞窟をふさいでしまうのだ!
このプランはクスノキくんにすら秘密にしてきたが折を見てすべてを話そう。
私も特別起動部品の完成を急ぐ。

潜水艇の完成が近づけばクスノキくんからおまえに連絡が行くはずだ。
わかりました。
…ただし、もし敵に先をこされてしまった場合、つまりカイオーガとグラードンがぶつかり合った時には、
第2のプランを実行するのだ。
レジロック、レジアイス、レジスチル、2匹の激突を抑えこむというプランを!!
例の石板はどうなった?
ともに力を尽くし、

病院で知り合った少年にあずけてあります。
ズバ抜けた指先の感覚の持ち主で、彼なら風化し、すり減った石板の凸凹も読み取れると思い、法則を教えました。必ず内容を解読してくれるでしょう。
…そうか私も科学解析でフォローする。
おまえも洞窟や遺跡に手がかりがないか、もう一度調査をしてくれ。
!?
ダイゴ…、
ホウエンに平和を取り戻すのだ!!

パチャッ
ダイゴさん！
大丈夫だ！
石板は役目を終えたからくだけ散った！
レジロックレジスチルレジアイスを呼び起こすことができたんだ!!
石板を通してハッキリわかった!!
成功したとやね？
ああ！ありがとう!!これで！
2匹が発する衝撃波を抑えこむことができる!!

よかっ…。

…う……う…ん。
ボク…は？
海底洞窟から上がってきて…、ルネシティで戦っていたはずなのに…。
そうだ。カイオーガとグラードンの激突に巻きこまれて…。
!!
サファイア！お、おいしっかり！
ん…ん？
あ、あんた…。
あれ？ダイゴさんは？

ここは？
わからない…。
あの激しい戦い、
ホウエン中の大混乱とは
いっさい関係ないかの
ような…。
美しく
おだやかな場所。
お目覚めに
なりましたか？
ずいぶん長い
お休みでしたが…。
ボンジュール
ご両人。
ようこそ
この、
最終特訓の地へ。

第255話

VS バネブーⅠ

Pocket Monsters SPECIAL

The Fourth Chapter

あ、あなたは
誰です!?
それにここは
どこなんですか!?

あたしらは
ホウエンの大混乱、
あの激戦の中に
いたとやのに…、
どうなっとると!?

ノン、ノン!
質問は
ひとつずつ
しなくては
いけませんよ。

ルビー、
サファイア。

次に2つめの質問の答え。ここがどこか…、というと…、
マボロシ島!!
そう呼ぶ方が多いですね。正確な名称は私も知りません。
ホウエン地方にあるひとつの島ですがある種、隔絶された不思議な場所です。
マボロシ島…。
ウィ!
ホウエンの現状について。
パチン!!
そしてキミたちがもっとも気にしている3つめの質問…、

キングドラが作り出す
水のスクリーンを
よくご覧なさい。
ブシュアアアアア
ミャアアアアァ
ギュゴゴ
……あ。
あ……あ!!

カイオーガとグラードンが！　やはりまだ激突している!!

そのとおり。
グラン・メテオを利用したキミたちの攻撃で一瞬は2匹の動きが止まったように見えましたが、
GO!!
アクア団・マグマ団の両リーダーから宝珠を追い出し、暴走から解放するのがやっとだったようです。

逆にその時の衝撃で吹き飛ばされたキミたちを、私がここに連れてきました。

恐ろしいことに2匹の力はここに来て完全に互角！
……。

こうやってぶつかりあった状態のまま、押すことも引くこともできず一見、活動停止したかに見えます。

しかし、安心してください。

この破壊エネルギーの拡張を周囲から押しとどめるべく今、力を尽くしている者たちもいます。

!?

周囲から押しとどめる!?

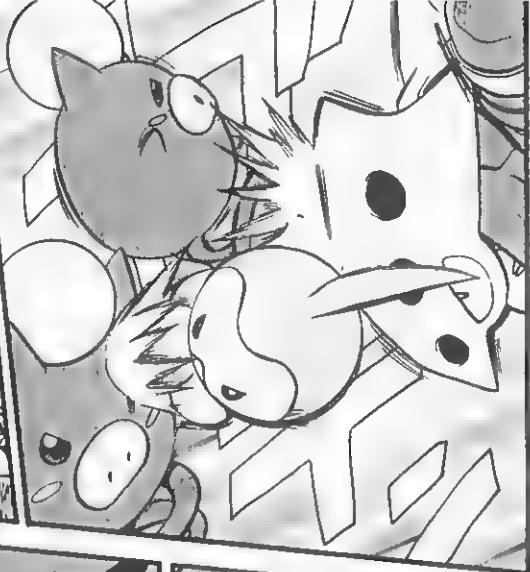
ウィ！"ばかぢから"で強引にね。

ホウエンでもトップクラスの腕を持つ彼らだからできる荒技です。

新・旧Wチャンピオンミクリ、ダイゴと四天王!!

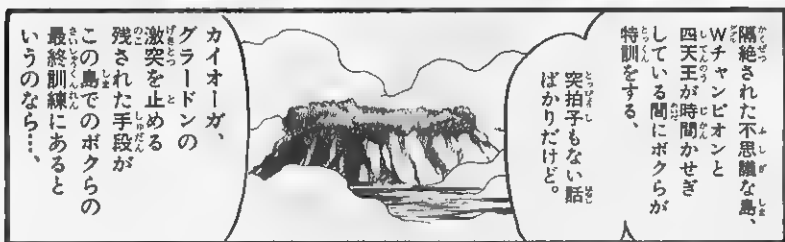
彼ら6人が操る伝説のポケモン!!
レジロック!! レジアイス!! レジスチル!!
サファイア、キミの協力で3匹を呼び出すことにギリギリ間に合ったのですよ。
新・旧Wチャンピオン…ミクリ…ダイゴ!?
んんん?
この激戦の中である覚悟を決めたダイゴくんが、チャンピオンの座をミクリに渡したということですが、何か?
そんなことはどーでもよろしい。
大切なことはひとつだけです!

彼らが力を尽くしても、結局は時間かせぎにしかならないということです!!
カイオーガ、グラードンと決着をつける運命にあるルビーとサファイア。
キミたち2人が特訓する間の時間かせぎにしか…ね。
フウ、ラン。
はい、アダンさん!
バネブー〝じんつうりき〟!!
ガオン!!
うわっ!!
たっ!!
POPO!!
どらら!!

いきなり
何ばすっとね!!
ぐぐぐ…
キミたちに残された
課題を、今すぐここで
修得したまえ。
な……。
時の流れは
うつりゆけども
変わらぬその目の
かしこさよ。
雨・晴・こおりと
躍する天気や、
ポケモン
ポワルン、
名前は
POPO。
"ウェザーボール"!!

〃みずのはどう〃!!!

……。

同じだ…、師匠のさばき方と…。
師匠の師匠という話がウソではないことだけはわかりました。

…そして…、師の師となれば、
我が師も同然!!

隔絶された不思議な島、Wチャンピオンと四天王が時間かせぎしている間にボクらが特訓をする、
突拍子もない話ばかりだけど。
カイオーガ、グラードンの激突を止める残された手段がこの島でのボクらの最終訓練にあるというのなら…、

その特訓受けましょう!!
大師匠!!!
トレビアン!!すばらしい!
さすがミクリの選んだ弟子!!
では時間もないことなので、さっそく課題にとりかかりましょうか。
そうそう、落とし物を忘れずに。
課題は2つあります。
まず1つめ、ダブルバトル。
この2人、フウとランはトクサネジムのジムリーダーです。

彼らも
マグマ団との戦いで
絶命の危機に
あったところを
私が助け出したの
ですが…、
まずは2人から
トレーナー同士の
高度なコンビネーションに
ついて学んでください。
さあ、急ごう
時間がない。
なんせマボロシ島に
いるだけで
時間が過ぎていって
しまうのだからな。

どういう
意味ですか?
む…そうか、
一番
肝心なことを
言い忘れて
いた。

ここは
時間の流れが
外界と異なるのだ。
キミたちは
3日ほど意識を
失っていたのだが、
実は外の世界では
7倍のスピードで
時が流れ、
すでに21日が
過ぎている。

………。

そげんバカなこつ
信じられんと!!
アダンさん、
おとりこみ中
すいません。

ランが何かに気づいたみたいなんです。
ええ、気配がいくつかするんです。

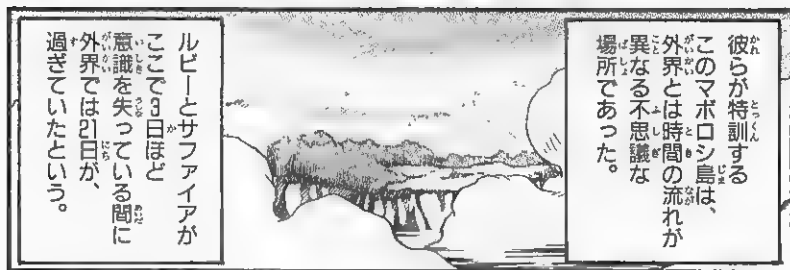
気配？
なんだかわたしたち以外に、この島に入りこんだポケモンか人がいるような……。

第256話

VS バネブーII

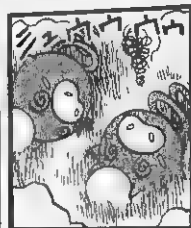
Pocket Monsters SPECIAL

The Fourth Chapter

ルビーとサファイア、2人の最後の特訓が始まった。

時間の流れが
極端に速くなったり
遅くなったりを、
交互にくり返すマボロシ島。

いけっ、プラスル!!

いくったい、マイナン!!

"でんげきは"!!

OK! 片方が能力変化をしかけ、片方がそれに合わせた攻撃をする、今のコンビネーションはなかなかよかったよ。
なあ、ラン。
そうね、フウ。2人とも上手になってきたわ、ダブルバトル。

うれしか〜〜〜!
ジムリーダー様にほめられたとよ!! プラスル、マイナン!!

すてられ船で一緒に戦ったあんたらが、
この島に迷いこんでたとわかった時はホントにびっくりしたとやけど、

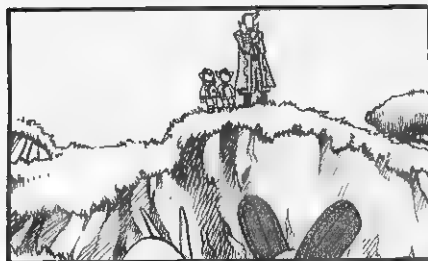
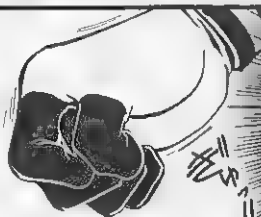
ダブルバトルにはあんたらみたいにコンビで戦えるポケモンが大きい戦力になるけ、
あたしらにはうれしい再会ったい。

うん。なにしろこれから挑むのはカイオーガ、グラードンとの再戦だからね。
2対2の知識や技術が絶対に重要になることは間違いないものね。

さ、疲れすぎないように小休止しましょう。
プラスルとマイナンもこっちへおいで。

プラスル・マイナンで戦う場合のコンビネーションは今のを基本パターンとして…、
次はZUZUとバシャーモが組む時のパターンを確認しておかなくちゃ…。
海底洞窟では〝だくりゅう〟がワンテンポ遅れて…。

バシャーモが〝スカイアッパー〟を習得したと仮定して…、こう打ち込んでいる間に…、
ZUZUはこう回りこんで…。

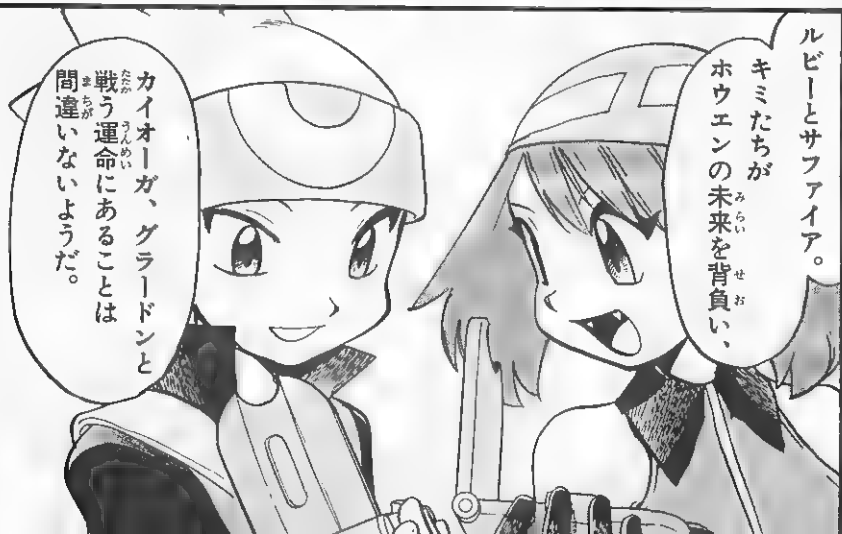
……。

待って待って!
あたしもやるったい!

〝スカイアッパー〟やろ?
もうすぐ覚えさせられ
そうやけんね!!

フウ、ラン、
あの2人は
どうかね?

かなり
いいです。

特訓を始めてから少しも
休まず、こっちが与えた
課題以上のことを
こなしつづけています。

手持ちのポケモンも急激にレベルアップしています。
ほら…、
サファイアちゃんのコドラが…。
ぶる ぶる
なによりも2人の息がよく合ってます。
トレビアン!
さすがミクリが言っていただけのことはある。
…そして、
ルビーとサファイア。
キミたちがホウエンの未来を背負い、
カイオーガ、グラードンと戦う運命にあることは間違いないようだ。

そこ!!

一気にこぶしば振りぬくったい!!

ハア…ハア…できたけ…、〝スカイアッパー〟。

あたしだって……
コンビで
戦う以上は、

あんたの足
引っぱることは
したくないけんね！

……。

精神の特訓だ。

手持ちのポケモンたち
全員と一緒に、
じっとこの泉を
見つめてごらん。

ダブルバトルの
特訓で高まった
心と体を静かに…
落ちつけて…、
落ちつけて…。

ゆっくり…
水の波紋を
見ながら…、
心をからっぽに
するんだ…。

その状態で…、
まずはルビー。

私の右手か左手、
どちらかにコインが
入っている。
入ってるほうを
直感で選んで
みたまえ。

……、
…左。
ハズレ。

もう一度。
右。
正解、
もう一度。
右。
ハズレ、
もう一度。
左。
ハズレ、
もう一度。

6回やって
2回正解。
次は
サファイアだ。

右。
正解。
左。
正解。
右。
正解。

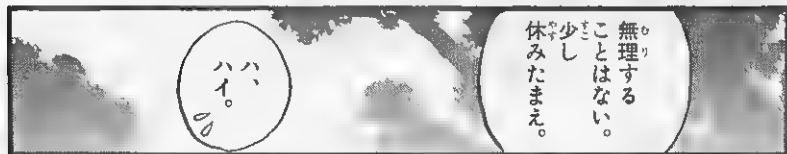
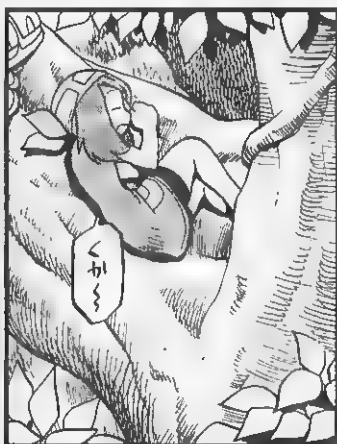
うん、いいぞ。
直感力は
サファイアのほうが
断然
いいみたいだな。
あ、あの、
この訓練は
何のために
しとると?

カンタンなこと、
心を研ぎ
澄ますためだ。

戦いの中では
瞬間的な判断を
しなければならない
ことが多い。
理屈ではなく、
「これだ」と感じて
行動する必要がある。
とはいえ、
感情に左右されて
パニックになって
しまうことも
避けなければ
ならない。

私はこの訓練で、
キミたちのハートを
強く鍛えてあげたいのだ。

……。
うつらうつら

オホン！
…はっ!! す、すまんち!! なんか急に眠たくなってしまったと！
この泉の水は精神をリラックスさせる力があるからその影響かもしれないな。

無理することはない。少し休みたまえ。
ハ、ハイ。

くかく～

大師匠。
ん？

あなたの言葉には説得力があってひとつひとつにうなずけます。

ここであなたやフウさん、ランさんから受ける特訓で自分の力が高まっていくのもわかります。
なによりも…、師匠の師匠というだけでボクには無条件に尊敬できる人です。
…ただ!!
ただ？

ひとつだけ腹立たしく思ってることがあります。
ほう!何かね?
言ってみたまえ。
知っているのに、あえてボクら2人には秘密にしていることがありますよね。
2つの宝珠がボクと彼女の体内にあることを!!
マツブサ、アオギリの中から追い出された宝珠は今、ボクたちの体の中に入ってるんですよね!?

●第257話●
VS カイオーガ&グラードンXV

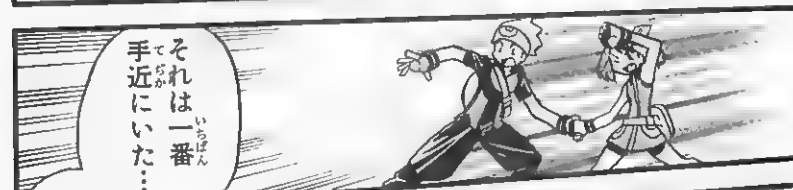
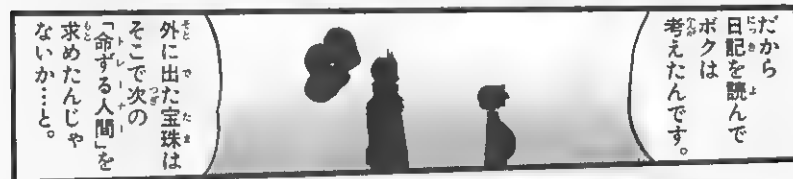
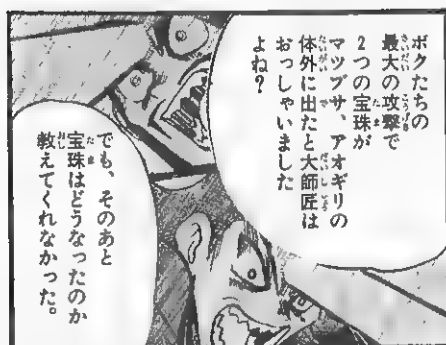
Pocket
Monsters
SPECIAL
The Fourth Chapter

あるんでしょう!?マツブサとアオギリの中から追い出された2つの宝珠が…!!

今、ボクと彼女の中に!!

おそらく彼も宝珠を研究し宝珠を求める1人の科学者だったんでしょう。
日記の中に宝珠について彼が調べたたくさんの事実が書かれていました。
「宝珠には超古代ポケモンカイオーガとグラードンを活性化させたり沈静化させたりする力があること」。
「その力を発動するには『命ずる人間』が必要なこと」。
「宝珠と『命ずる人間』が一体化してしまうこと」。
…そして、
「宝珠のほうが『命ずる人間』を選ぶ場合もあること」…!!

それは一番手近にいた…、

ボクら2人だったんじゃないかって。

予想は当たりました。
このマボロシ島で特訓している中でゆっくり浮かび上がってきた手の甲の紋…！
海底洞窟でマツブサ、アオギリの体に浮かんでいたのと同じ紋だ!!
ブラボー!!
キミの考えはほとんど正しい！すばらしい論理的思考だ!!
ふ、ふざけてごまかさないでください、大師匠!!
べつにふざけてなどいない。
そこまで自分で気づいたのならわかるだろう？
私がキミたちに指導している「精神の特訓」の意味もね。
え!?
さ、それでは特訓のつづきを始めるか。

今、ここで宝珠を体外に出すことを強く思いたまえ。
ZUZU、NANA COCO、POPOもルビーに気持ちを合わせともに念じてみるんだ。
…っう！
……。
くああ…、
いいぞ!!
もうすぐ宝珠を完全に支配できる!!
…う…ぐ！
あ

ハア…ハア…
大師匠…!!
よくやったぞ!
これがこの島での
特訓の真の意味だよ、
ルビー!!

特訓に使える猶予は
この島の時間の流れで
残り1日ほど。
そのあとにおとずれる
「外界の時間の流れが
同調する瞬間」をねらい、
ルネに戻る。

戻ったら、
キミが行うことは
ただひとつ。
サファイアと
2人で宝珠を持ち、
カイオーガ、
グラードンに
命ずる。

制止せよ、と。
それだけだ。

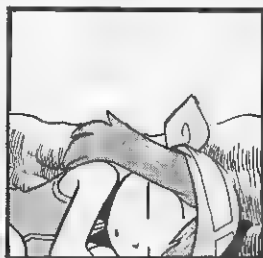
ただし!
そこで気持ちの
弱い者は、
宝珠を通して
流れこんでくる
カイオーガ、
グラードンの
力に飲みこまれ
てしまう。
マツブサや
アオギリの
ように…。

…そうですね。
……。

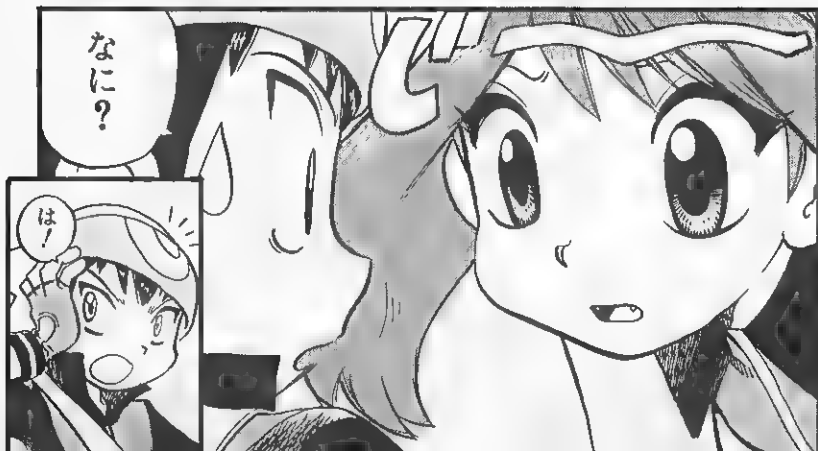
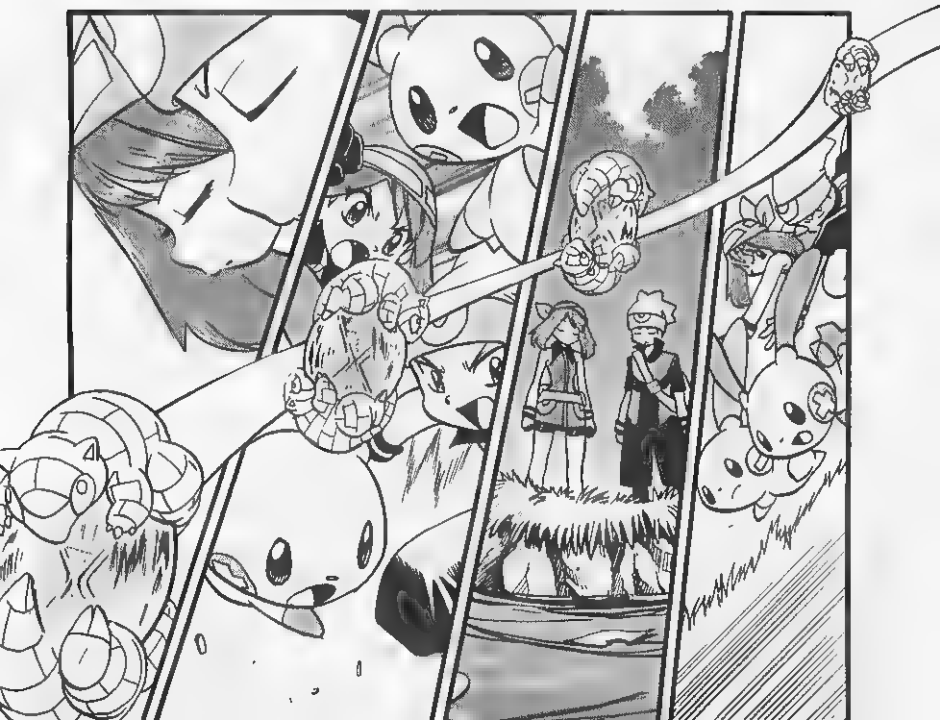
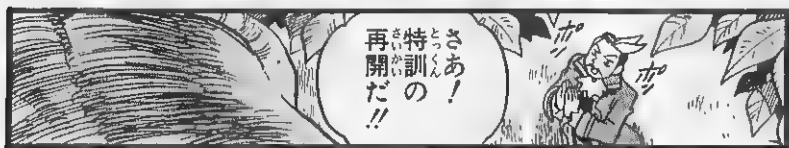
ルビー。
キミは、たまたま近くにいたから宝珠が自分たちに入ったと言ったが、…果たしてそうだろうか?

キミもサファイアもポケモントレーナーとして、ホウエン最強というわけではない。
強さだけならキミたちよりジムリーダーのほうが強い!四天王はさらに強い!!
!?
さらに四天王より強い新旧チャンピオンがあの場にいたのに、宝珠はキミたちを選んだのだ。

要するに、キミたちがこの役目を果たすのにふさわしいトレーナーだから、
選ばれたんだよ!!

…それにしても、
ショッキングな内容を聞かせないように彼女が 入ったのを見はからって話し始めるとは…。
自分勝手と聞いていたが、
女性を気づかう紳士的なやさしさも持ち合わせているじゃないか。
起きてる、
…よね？
ぬっ
………。
たはは、バレてたと？
どこから聞いてた？
…実は…。
ほとんど全部ったい。
なんかえらく真剣に話しとったけ…。
なんとなく聞き耳立ててしまったとよ。

まさか…ね。
あ、でも
気にせんでね！
どのみち
わかること
やったろうし…!!
…うん。
まあ
こうなった以上、
現実を受け入れて
いくしかない
わけだし…。
ポケモンたちの
技にももっと
みがきをかけて…。
ウィーン
あれ？
なんだか
この島に来てから
調子悪いな、図鑑。
？
なに？
は！

……。

さあ！特訓の再開だ!!

来ました、アダンさん!!
うむ、雨まじりの風も吹いてきたな。
時間の流れのスピードが逆転しつつある!
極端に遅い時間の流れが、極端に速い時間の流れに移ろうとしている。
外界と同調する瞬間だ!!

空の柱
ゴオォォォ
お…おお!!

うっすら見えてきたぞ!!
あれは…、

マボロシ島!!

ヒュウウウウ

ルビーサファイア、よく特訓をこなしたな。
そういえばサファイア、キミは全ジム制覇が目的だったな。
ハ、ハイ。

ここで向上した実力は十分ジムリーダー戦に値するものだ。これを渡そう。
ルネジムのレインバッチだ。
私たちからもトクサネのマインドバッチよ。

つけたげる
ありがとー
さて、出発はタイミングが大事だ。

私たちは
島の中心部へ行き
時間を計る。
外部と完全に
同調したら、
キングドラが
水花火を
打ち上げる。
それが島を
出る合図だ。
ハイ。
しっかりな！
がんばってー
いよいよだな。
ねえ。
ここば
発つ前に…、
話しときたい
ことが
あるけん。
…あたし、
あんたのこと…。

SAPPHIRE
●サファイア

RUBY
●ルビー

126番水道

海底洞窟

ルネシティ

マボロシ島

ちゃも
バシャーモ♀
Lv59

どらら
コドラ♂
Lv54

ふぁどど
ドンファン♂
Lv58

とろろ
トロピウス♂
Lv56

マイナン
マイナン♀
Lv52

ZUZU
ヌマクロー♂

NANA
グラエナ♀

COCO
エネコロロ♀

POPO
ポワルン♀

プラスル
プラスル♂

●第258話●
VS レックウザⅠ

Pocket Monsters SPECIAL

The Fourth Chapter

ルビーとサファイアがマボロシ島より飛びたとうとしているのと同じ頃。空の柱50階ではミツルとセンリの修業がいまだ続いていた――!
"おどろかす"!!
ひるんだ!!今だ!!

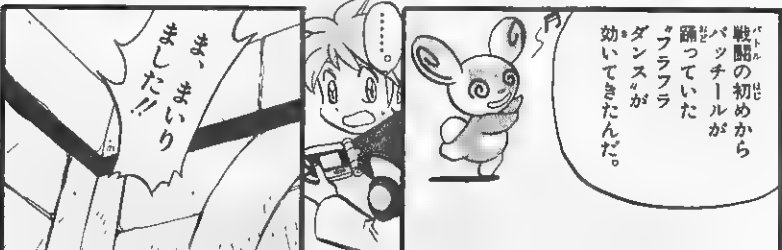
ズオッ
〝すなじごく〟!!
むおっ!!

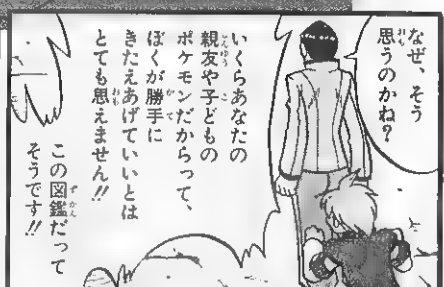
センリさんの手持ちで一番の強敵はケッキング!!
でも、その唯一の弱点は特性「なまけ」!!一度攻撃したあとはなまけてしまう!
そのスキをうまくつけばボクだって…!!
……どうかな?
パッチール、"スキルスワップ"!!
!?
"ふぶき"!!

ハァ、ハァ、どうして…!?
パッチールの技、〝スキルスワップ〟!
この技によってパッチールとケッキングの特性が入れ替わったのだ!!

よってケッキングの特性は「マイペース」になり、パッチールの特性は「なまけ」になった!
マイペース
なまけ
スキルスワップ
なまけ
マイペース
〝スキルスワップ〟を使った時点でキミが狙ったケッキングの攻撃の谷間がなくなったというワケだ!!
ま、まだまだ!戦闘不能になったワケじゃない!
フライゴン!カクレオン!!
ムダだ!

!?
ヨタ
「こんらん」してる!?
ヨタ

戦闘の初めからパッチールが踊っていた〝フラフラダンス〟が効いてきたんだ。
……。
ま、まいりました!!

なかなかかなわないなぁ。
いや、そんなことはない。
手を抜いていない、全力の私に対してここまでの戦いができるようになったとは、むしろ驚くべきこと。
ポケモン図鑑が手元にあることも大きいな。
ポケモン図鑑…。使っていて……いいんでしょうか?
たまたまぼくのところへ流れついてしまっただけなのに…。
なくした人はきっと探しているだろうし…、
キモリだってジュプトルに進化してしまって…。
いえ!それだけじゃありません!!
ルビーくんから預かった、このRURUだって!
この修業でキルリアに進化させてしまった!!
心配はいらん。

図鑑もキモリも誰の手元から流れてきたかわかっている。
オダマキというポケモン研究者、私の親友だ。
えっ!?
RURUにいたってはもともと私がルビーに持たせたポケモンだ。
その私が「問題ない」と言っているんだ。
キミは気にせず修業したまえ!
ぼくに…、
……、センリさん…。
……なんだ?
何かをさせようとしているんじゃないですか?
なぜ、そう思うのかね?
いくらあなたの親友や子どものポケモンだからって、ぼくが勝手にきたえあげていいとはとても思えません!!
この図鑑だってそうです!!
第一、今、2匹の超古代ポケモンが暴れてホウエン中の人々が逃げ回ってるんでしょう?
ぼくだけここでのん気にポケモンバトルの修業だなんて……!!

…だから、何か理由があるはずだと思ったんです!!
おそらく……、ぼくをこの状況の中に置いておくなんらかの理由が!!
カンがいいな、……キミは。
いいだろう。
キミとの修業…、その本当の目的は…、
!!?
わっ…、うわわ!!
とうとう、2匹の力の影響がここまでおよんだか!!
やあ!!わたしだよ、わたし!!元気か?センリ!!
……エニシダか。

だよな〜〜。カイオーガとグラードンの大激突によって、ホウエン地方は大混乱！

自然界全体のバランスが崩れてる。空の柱だって例外じゃないよな〜〜！

そっちの話は今度な！実はこっちも伝えたいことがあってな！協会本部に入りこんでいろいろ調べたんだ！

何をだ？

おまえをのぞいたジムリーダーたち。
彼らはポケモン協会の指示で3人・3人にわかれ、カイオーガとグラードンの食い止めにあたったが…！
結局、アクア団・マグマ団の幹部連中との戦いで2匹のルネへの進撃を許しちまった。
ルネで激突する2匹を制御することは、宝珠を持ったアクア、マグマ両ボスにもできなかったらしくてな。
今となっては両ボスにかわって宝珠に選ばれた「新たなる2人」に、希望がかけられてる状況だ。
その2人って誰だと思う？
オダマキの娘サファイアと、
おまえの息子、ルビーだ!!!
しかし相手は強敵だ、期待どおりにいくとは思えねえけどなあ。
ピクッ
だから、センリ！
さっさと起こせよ！
第3の超古代ポケモンを!!
バッハハ～イ！

セ、センリさん!
今の話は…!?
「真実ですか?」と
聞きたいのか?

素質ある
トレーナーを求めて
どこへでも現れ、
知らぬ間に去っていく。
……それゆえ
並大抵ではない
情報量を持つ
神出鬼没の男…、
あのエニシダが
言ったことだ。
すべて真実に
決まっている。

じゃ、じゃあ
本当に
ルビーくん
が……。
ガク
ガク
そ、そして
話の最後に
出てきた…、

第3の
超古代ポケモンって……。

そうだ!
それこそ
まさしくさっき
キミが質問した、
この修業の
真の目的!!

さあ!
その円の
中に立つんだ。
ジャラ。

え…わ!!

この光は…。

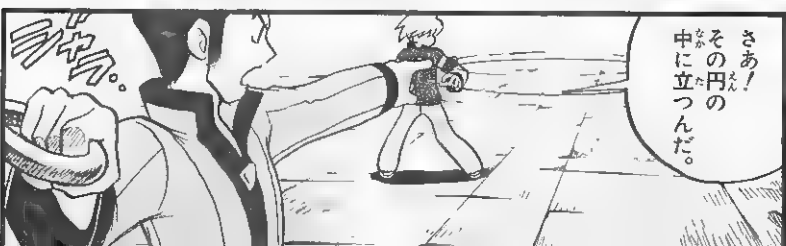
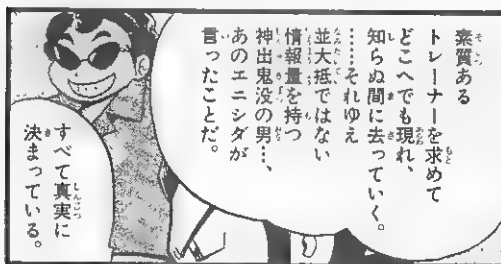
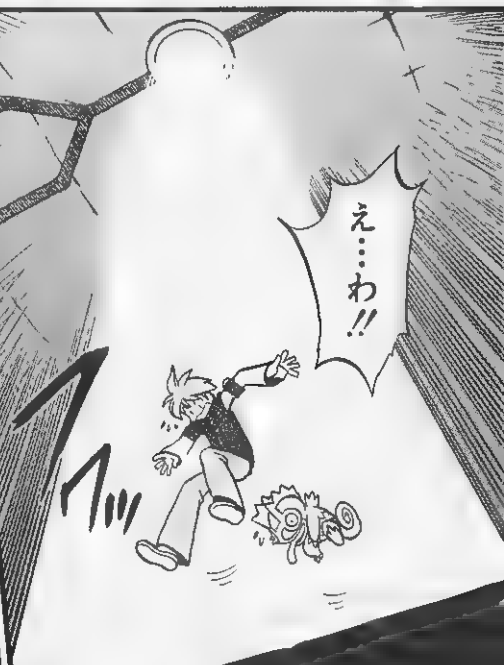
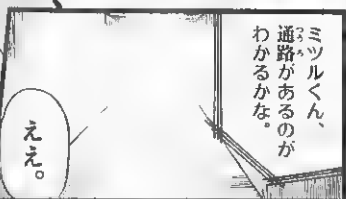
柱の頂への
入り口だ!!

!!

カクレオン、
どうした!?

急いで
カクレオンを
しまったほうがいい。
その光は
ポケモンの技や
ポケモンそのものも
拒絶する。

ボールにさえ
しまっておけば、
ポケモンにも
トレーナーにも
害はない！

ハイ!!

ここは…!?
センリさん!!
入り口を無事通り抜けたようだな。
ミツルくん、通路があるのがわかるかな。
ええ。
その先にはさっきエニシダが言っていた、第3の超古代ポケモンがいる。
そいつを我々2人で目覚めさせる!!

センリさんとぼくとで、
第3の超古代ポケモンを目覚めさせる!?

……まさか、ここから先はぼく1人で!?

大丈夫だ。

キミは立派に実力を高めた。

キミ自身は意識していないかもしれないが、私との修業によってそれができうる力を身につけたのだ。

私は5年前から
天空に消えた、
第3の超古代ポケモンの
行方を追っていた。

家族と過ごす
時間さえ
引き替えにして…。

その通路の隔壁はこっちで鎖を1本1本引かないと開かない。
そして隔壁ごとに通路は……、
ハイ! せまくなってます!!
ボクが通るのも…やっと…。
わかったろう、ミツルくん。
最初のゲートはポケモンを拒絶し、中の通路は大人を拒絶する。
私がポケモンとともに1人で挑んだとしても、頂には絶対たどりつけない。
下で鎖を引く指示者と、通路をくぐる突入者。
おとなと…、
…こども。
この両者でなければ成功しえないミッションなのだ……。
う…。
!!

ゴゴゴゴ
センリさん!!
いました!!
いたか!!
てんくうポケモン
レックウザ!!
うわ!!

センリさん！
ここまで来れば
ポケモンを
出しても
いいんですね!?
ああ!!
どうやって
解放すれば…!?
レックウザの周囲を、
霧のようなものが
取り巻いていないか!?
ハイ、
取り巻いて
います!!
それはオゾンといって、
レックウザの
もっとも好む
空気の成分だ!!
レックウザは
半休眠状態に入るとき、
自らオゾンのかたまりを
身にまとう!!
レックウザを直接
攻撃する必要はない！
そのオゾンの
かたまりに穴を
開けるだけて
いい!!
今のキミの
手持ちなら、
どの攻撃でも
たやすくできる!!
ただし、
オゾンは毒だ！
吸いすぎると
命にかかわる!!
呼吸器から
口をはなすな!!
……センリさん、
あなたは……。
指示者と突入者、
この両者でなければ
なしえない
ミッションなんだ!!

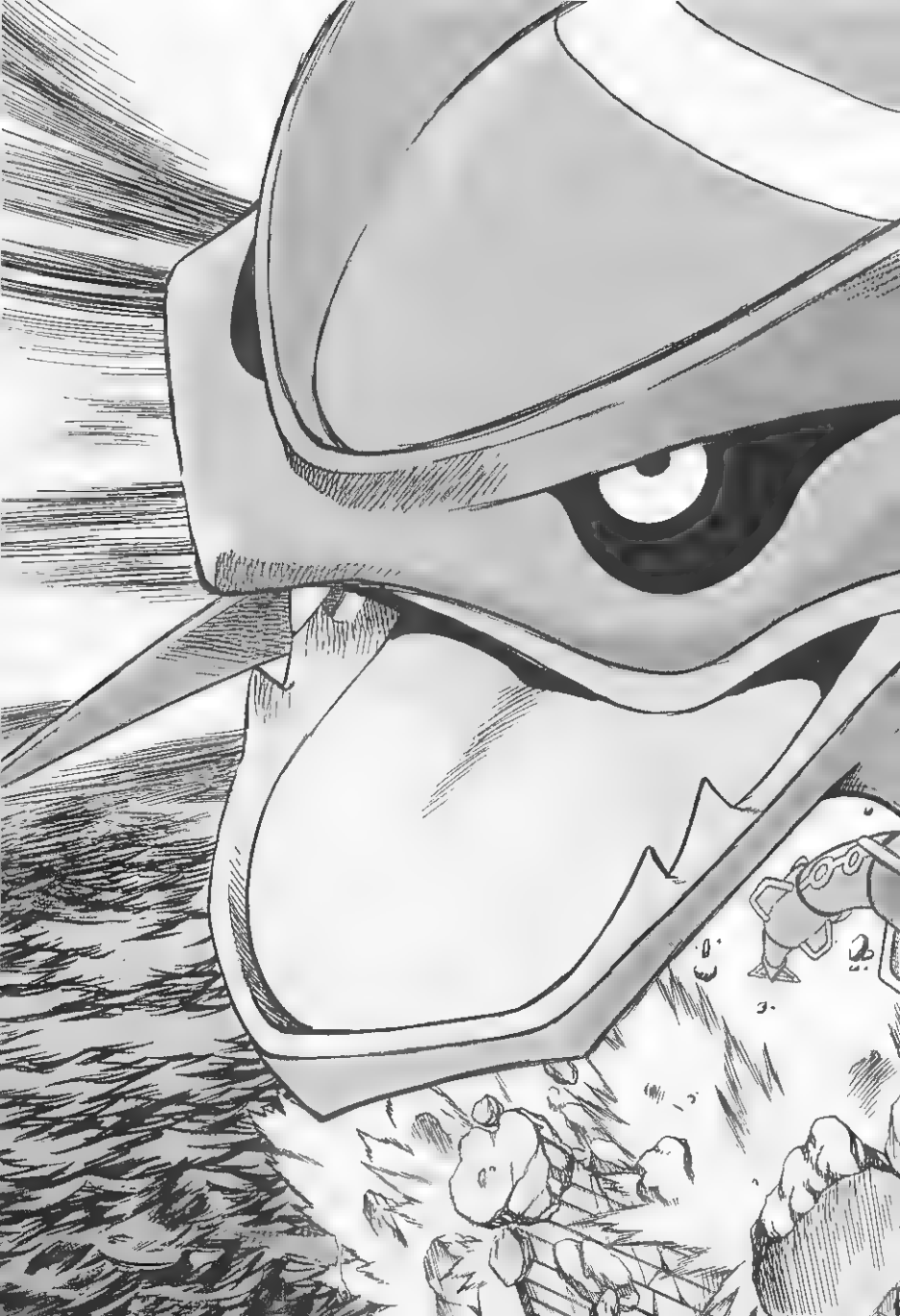
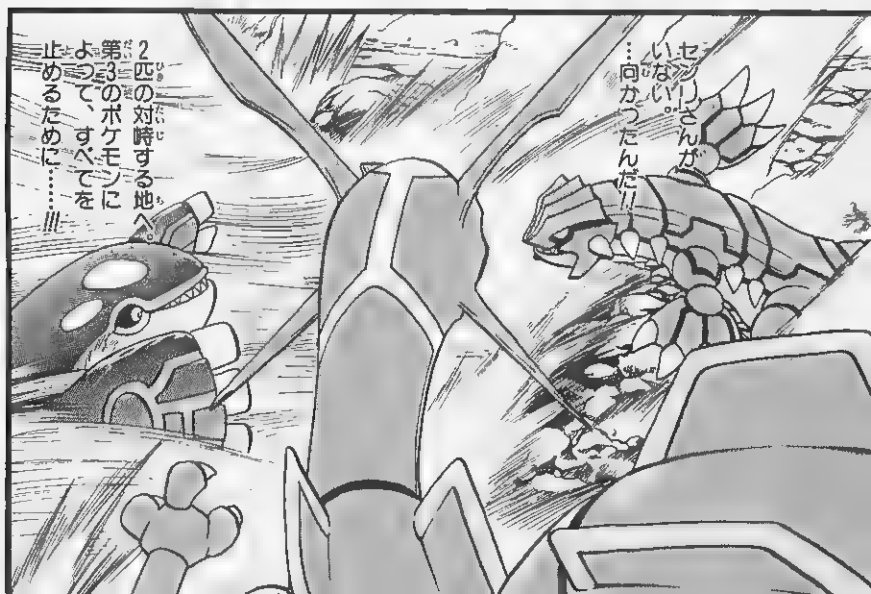
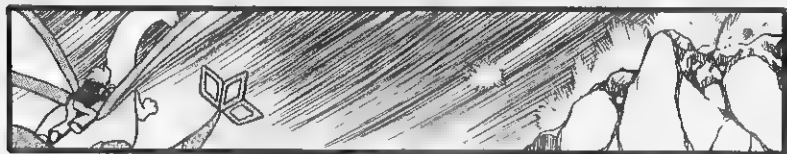
本当は…、
自分の息子と……。
よし!
RURU!!
"ふういん"!!
……たとえルビーくんの代わりだってかまわない。

寝こんでばかりでポケモンを手にすることすらできなかったこのぼくが、
ホウエン地方の異変を食い止めるのにわずかでも役立つことができるのだから…!!!
ジュプトル!!
オゾンをつらぬけ!!

ダネマシンガン!!
ミョオオオオ

センリさん…、やりました!!

センリさんがいない。…向かったんだ!!

2匹の対峙する地へ。第3のポケモンによって、すべてを止めるために……!!!

●第259話●

VS レックウザⅡ

Pocket Monsters SPECIAL

The Fourth Chapter

あたし…、
あんたのことが…好きったい……。

時間が完全に同調したぞ!!
キングドラ!合図の水花火だ!!
!!

ピリリリ

ピ
ルビー、私だ。首尾よく飛び立てたようだな。
しばらくは大丈夫だと思うが、時間のはさまに巻きこまれぬよう気をつけて飛ぶんだぞ。
島からでもある程度モニターできるので危険があれば、そのつど知らせる!
!?
大師匠は島を出なかったんですか!?

ウィ、フウとランもね。
キミたちが無事外界にたどり着くまでナビゲートするつもりだ。
たのむぞ、2人とも！
ハイ。
すまんち。

こんな時にヘンなこと言うてしもて…。
…でも今、言うとかんと…と思ったけ。

だって、前に言うとったやろ？…いずれ「ジョウトに帰るつもりだ」って…。

コンテスト制覇したらジョウトへ帰りたいって思ってるくらいさ。ボクが暮らすにはここはイナカすぎて…。

あの気持ちが変わっとらんのなら、あんたはこの戦いが終わったら遠くへ行ってしまう…ゆうことやね？
あんたと一緒におれるのはあとわずか。
そう考えたら…胸が…苦しゅうなって…。
それで初めて…、気づいたと…。

あたしはこん人が…、
ルビーのことが好きになっとったんやって…。
最初はいけすかんヤツやと思っとった。
礼儀知らずで、
かっこつけで、
ひねくれてて、
気取り屋で、
ウソつきで、
口ばっかりで中身のない男やと。
でも、なんでやろ…。
一緒に戦っているうちに…どんどんあんたの良かところが見えてきて、
この人の強さは本物やって思うようになったったい。
……。
実はね…、あたし、前から好きな人がおったとよ。
ずっと小さいころ、何日間かだけ一緒に過ごした男の子。顔も名前も覚えとらんけどハッキリしてるのは…、

何年も何年も想い続けた。それくらい好きやった。

バトルば極めるゆう目標もその人の影響たい。

…でも父ちゃんのポケモン分布調査ば手伝って過ごすうち、
あっという間に11歳の誕生日が近づいてきて…。

あんたと洞窟で出会った日が、
誕生日の80日前やった。
助け

そんな短い日数ではムリかも知れん。でも小さいころの男の子の言葉ば思い出したら、
どうしても11歳になる前に、
せめてポケモンリーグの入口、ジム制覇だけはなしとげておきたかったと。

期限は…80日!!

自分の誕生日ばゴールに設定して、あんたに賭けば持ちかけてもうたったい。
ほとんど勢いで。

…だから、
だから80日だったのか。

でも…、今はこの賭けばして本当によかったと思っとるんよ。
…だって、
この競争のおかげであんたの良かところたくさん見れたけんね。
ポケモンと一緒に戦うあんたが好き。
ポケモンの毛づくろいばするあんたが好き。
気どって気持ちばかくすけど、本当はやさしいところも好き。
こうと決めたら迷わず立ち向かうところも全部、全部好き。
不思議やね。あれほど好きやった思い出の男の子より、
今ではあんたのほうが心の中ばいっぱいにしてるんやけ。
こん気持ちば伝えられただけでよか。
でも…、ただ一コ、かなうんなら…、
ここに…おって。
この戦いが終わっても遠くへ行かんで…。
もう一度よみがえるホウエンの自然ばいっぱいいっぱい知ってほしい。
…だから…、
ね？

……一緒に……、
ミシロへ戻ろう？

サー…
サラサラ
サー
パラ…
パラ…

なんか変ですね、アダンさん。外界との時間の同調が安定しませんね。
うむ…、実はルビーをマボロシ島に連れてくる時にも、同じような現象が起こったのだよ。
だからここに残ってナビをしようと思ったのだが…。
ピッ
ルビー、気をつけろ！時間のはざまに落ちたら、最終戦どころじゃないぞ!!

ああ
無理につっこまず、
時間の波に
うまく乗るのだ!!
くうっ!
ルビー!!
大丈夫です、
大師匠!!
もうすぐ
この空間を
抜けられ
そうです!!
ゴオオオ
見えてきました!!
…あれは…、

ルビー!!
サファイア!!

戻ってきたぞ！ルネシティ!!
サファイア、紅色の宝珠は今、体の外に出せる？
う、うん。

むく……く。
ズズズ

師匠、すみませんエアカーを勝手に使います。
ポケギアからリモートコントロールする番号は前に見て覚えてるから……。
ピピ

どれ。
エアカーを使って何ばすっと？

うん、
こうするんだ。

パピピポ

ガチャン!!

パシュン!!

なして!?
なして
こんなことすっと!?

今、お礼を言うよ。
ボクもこの賭けを
して、よかった。
本当に、

助けてやったとに…、
わっ
なんばしよっとね!!
女の子だったんです。
なまり全開の野獣のような!!
自然のものは自然なままが一番たい!!
コンテストぉ??
……ありがとう。だけど、
目標はちがえどそれを成しとげたい気持ちは同じったい!!
あ、あたしはこの石の洞窟からすごい地響きがしたけん!
あんたが埋まったかもしれん思って、飛んで来たったい!! それなのに…。
男のくせにまぁた化粧ばしよう。
あたしはえるるの上で寝るとして、
まさか男の人と同じところで寝るなんて考えられんと。
兄ちゃんにしかられるったい。
あたしは今何も見えんけん今度はあんたにもしっかりしてもらわんと。
!!

やっぱり2対2で
戦う時は
チームワーク!!
助け合いったいね!!
鍛えた力は
なんのためったい!!
誰かば助けたり
そのための力じゃあ
なかとかァァ!?
あたしだって
女の子ったい!!
かわいかー!
…ウンば、
ついてた
とやね?
キミとは
いっしょに
行けないんだ。
なぜって
キミの気持ちを
聞いてしまったから。
そして、

ボクもキミが好きだったからさ。
小さなころからずっとずっと、…想ってた。
だから…、キミを連れてはいけない。
超古代ポケモンとの再決戦に…、連れてはいけないんだ!!

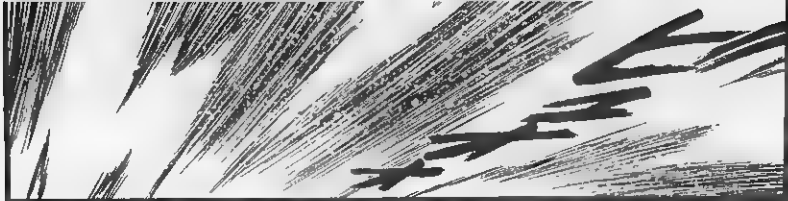
ひたいの傷……!!
あんたが……、
ルビーが……!!
あたしは
ボーマンダから
守ってくれた
男の子……!!!

お別れは
すんだかい?

ええ。
行きましょう、
カガリさん。

おおおおおおお!!!

早まるな。
早まるなよ、ルビー。
約束の日まであと…3日!!
〈ポケットモンスタースペシャル第21巻おわり／第22巻へつづく〉

次巻予告!
だがサファイアを私のエアカーに閉じこめた上、
マグマ団の女幹部とともに戦いはじめただと!?
何を…、何を考えている!?
ルビー!!
サファイアと決別し、カガリと共闘するルビーの真意とは──!?
私の責任です。
これから5年間キミから「ジムリーダー試験を受験する権利」をはく奪する。
それまでは、逃がしたポケモンの捜索を命じる!
これからは…あまり家族と過ごせなくなってしまうが…
すまない…許してくれ。
センリが背負う過去の十字架──!!

第4章完結!!

そして…

三大古代ポケモンの超攻防と

ふたりの想いに

ついに結末が!!!

ポケットモンスター
SPECIAL 第22巻!

『80日目…約束の日』!!

くわしい!! わかりやすい!! ポケモンガイドブックは小学館(しょうがくかん)

任天堂公式ガイドブック
ポケットモンスター
エメラルド

定価1050円(本体1000円)

任天堂公式ガイドブック
ポケットモンスター
ファイアレッド・
リーフグリーン
ぜんこくずかん

定価1260円(本体1200円)

てんとう虫コミックススペシャル　「小学五年生」「小学六年生」連載作品

ポケットモンスタースペシャル

2006年1月25日　初版　第1刷発行　(検印廃止)

シナリオ　日下秀憲
まんが　山本サトシ

発行者　黒川和彦
印刷所　三晃印刷株式会社
PRINTED IN JAPAN

発行所　(〒101-8001)東京都千代田区一ツ橋2の3の1
TEL 編集03(3230)5407
販売03(5281)3556

株式会社 小学館

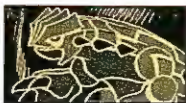
ISBN4-09-140096-5

●アンケートのおねがい●

この本についてのアンケートをインターネットでうけつけています。下記のホームページにアクセスし、この本のキーコードを入力してください。
【アドレス】http://www.info.shogakukan.co.jp　【キーコード】S140096
●アンケートにお答えいただいた方の中から毎月500名(全書籍アンケート総計)の方に抽選で小学館特製図書カード(1000円分)をさし上げます。
●発行日より6か月間有効です。

編集／宇佐美 亮　編集協力／長澤優美子・笠原 宙（十八VAN PLANNING）
本文デザイン／瀬川真由美・高野 册

決戦の地ルネ！　最強の２匹の超激突‼
絶望的事態を終熄に導くカギは
「古代石板の解読」だが⁉
四天王、チャンピオン、そして
空の柱より飛び立つ第３の存在…！
ルビー・サファイアの想いとともに
すべてが、ひとつの結末へ‼

ポケットモンスター SPECIAL 21

vs カイオーガ&グラードン

vs レジロック・レジアイス・レジスチル

vs バネブー

vs レックウザ

ISBN4-09-140096-5

C9979 ¥438E

定価：本体438円＋税

雑誌 45210-96　小学館

決戦の地ルネ！　最強の２匹の超激突!!
絶望的事態を終熄に導くカギは
「古代石板の解読」だが!?
四天王、チャンピオン、そして
空の柱より飛び立つ第３の存在…！
ルビー・サファイアの想いとともに
すべてが、ひとつの結末へ!!